

老健 しずおか



第18号

静岡県老人保健施設協会機関誌



撮影：富士市 岩本山

ご挨拶



静岡県老人保健施設協会

会長

中島 一彦

日頃より老人保健事業にご理解、ご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。昨年四月に静岡県老人保健施設協会会長に就任し、はや一年が経とうとしております。

日本は様々な問題（防災対策、原子力発電、年金、消費税等）を抱えており、その中で世界に類をみない超高齢化社会に突入しています。この超高齢化社会の中で医療と介護・福祉の中心的担い手が、われわれ介護老人保健施設であり、地域包括ケアシステムの中心となつて在宅療養をマネジメントする役割となっております。

そんな中、平成二十六年六月十二日、十三日の二日間、静岡県浜松市において第十回東海・北陸ブロック老健大会静岡を開催する運びとなりました。

「その人らしく美しく」というメインテーマで、二〇二五年問題を見据え、施設から在宅までの要望にも応えられる地域に根ざした医療と介護、介護老人保健施設の役割というものを再確認出来る大会になればと考えております。

第十回記念大会ということで記念講演には草野 仁さんを講師に迎え「いつもチャレンジ精神で」というテーマで、大会を盛上げてもらう予定です。今まで東海・北陸ブロック大会では行われてこなかった福祉・医療機器展、ランチョンセミナー等、介護老人保健施設職員の相互研鑽と情報の交換を目的とした大会を開催したいと考えております。是非、皆さんの参加をお待ちしております。

静岡県は南海トラフ巨大地震、富士山の噴火等の大規模災害が心配されます。静岡県老人保健施設協会は静岡県と「災害時における高齢者福祉施設サービス継続のための連携等に関する協定書」という協定を交わし、静岡県、市町、そして全老健との連携を基に、施設利用者、職員の安全確保、施設運営の存続の為、応援態勢の整備協力を要請していきます。

今後も教育、研修、地域連携等、会員の皆様にとってより良い情報を発信出来る様に努力していきますので、ご協力の程宜しく願います。

ご挨拶



静岡県健康福祉部福祉長寿局

介護指導課長

高橋 邦典

日頃、貴会及び貴会会員の皆様には、本県の高齢者保健福祉の推進に御尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

高齢化は静岡県においても急速に進行しており、平成二十五年四月一日現在、高齢化率は二十四・九％に達し、四人に一人が六十五歳以上となりました。このうち、ほぼ半数を七十五歳以上の後期高齢者が占めています。全国的にも今後総人口が減少する一方、高齢者人口は増加していき、いわゆる「団塊の世代」が後期高齢者となる二〇二五年には、およそ三人に一人が六十五歳以上、五人に一人が七十五歳以上になると予測されています。

このように超高齢社会が進行する中、単身・高齢者のみ世帯の増加、認知症高齢者の増加、医療ニーズの高い高齢者や重度要介護者の増加、介護人材の不足等、多くの課題に対応する必要があります。

平成二十七年には介護保険制度の改正が予定され、「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律」に基づき、効率的かつ質の高い医療提供体制を構築するとともに、「地域包括ケアシステム」を構築することを通じ、「地域における医療及び介護の総合的な確保」を推進していくものとされています。

「できる限り住み慣れた地域で、最期まで尊厳をもって自分らしい生活を送りながら老いていたいく」ことが、介護・医療・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築の理念であり、住宅医療・介護の連携の推進が重要施策として掲げられています。

医療・看護・介護・リハビリがトータルに提供されることにより、利用者の生活を支える介護老人保健施設は、在宅復帰支援機能と在宅療養支援機能を持つており、これらの機能をさらに強化することにより、地域包括ケアシステムの要の役割を果たされることを期待しています。

また、昨年、本県では第四次地震被害想定を公表し、地震・津波対策をハード・ソフトの両面から充実・強化し、想定される被害をできる限り軽減することを目指しています。貴会におかれましては、施設間や地域との連携、被災施設等への支援体制の構築等、御協力をお願い申し上げます。

結びといたしまして、貴会及び貴会会員の皆様におかれましては、介護老人保健施設の理念と「五つの役割と機能」を踏まえ、高齢者の尊厳を守り、在宅生活を支える地域の拠点として、益々御活躍いただきますようお願い申し上げます。

全国初 静岡県と災害時連携協定締結

災害時における高齢者福祉施設サービス継続の為に連携等に関する協定

3月17日、県庁にて、大震災など有事の際に福祉サービスを円滑に継続させるため、静岡県と老健施設協会間で災害連携を構築するよう促す協定を全国で初めて締結しました。

協会に加盟する103施設が県内外の同種施設や地元市町と人的受け入れ、物資提供などについて協定を結ぶよう求め、県は助言や調整面で役割を担います。

県庁で行った調印式で宮城島好史県健康福祉部長は「単独では困難な対応が可能になる」と効果に期待した。中島会長は「職員の融通や入所者の受け入れをスムーズに行えるようにしたい」と述べた。



東日本大震災では福祉施設の高齢者の避難に時間がかかり、お年寄りが体調を崩すケースが相次いだことから、報道各社の関心は高く、調印式の後、中島会長には報道各社より質問が相次ぎました。

全体研修会

平成25年12月5日(木曜日)、KKRホテル熱海にて全体研修会を開催いたしました。

静岡県危機管理部 危機情報課長 滝田 和明様を招き「防災に関する静岡県の取り組み他、静岡県第4次被害想定について」の講演をして頂きました。静岡県は災害に対し関心が高く、50施設、72名の参加がありました。この研修の後、静岡県と老健施設協会間で災害連携を構築するよう促す協定を全国で初めて締結しております。



ライフラインや生活への支障

	機能支障率(%)	95%復旧見込
上水道	1週間後 58%	4～5週間程度
下水道	1週間後 7～43%	2～5週間程度
電力	4日間後 6～8%	1週間程度
通信	1週間後 6～12%	1～2週間程度
都市ガス	供給停止率 76%	4～6週間程度
避難者	1週間後 1,276千人(うち避難所 683千人) 静岡市や浜松市を中心に収容力不足の可能性	

平成25年度 職員研修発表会

平成25年11月29日(金) 13:30～15:45
静岡県総合研修所 もくせい会館1階「富士ホール」

第1回職員研修発表会に参加 95施設120名の参加

座長：ケアセンター瀬名 事務長 瀧 英樹

■地域の元気を支えよう！ ～「運動器の機能向上教室」への取り組み～

梅名の里 理学療法士 光岡 慶太

■オムツからボクサーパンツに移行して ～オムツ使用の改善を行い一人ひとりの排泄パターンを知る～

サンライズ大浜 介護福祉士 榊原 恵

■遠隔地居住者様の在宅復帰を通して ～3ヶ月の指導計画書を用いて～

ケアセンター池田の街 介護福祉士 野村 慶子

■転倒・転落アセスメントスコアシートの再考

ヒューマンライフ富士 理学療法士 中村 麻由子

■認知棟での改善例について

ひろみ 介護福祉士 小岱 美穂

■レクリエーション活動への取り組み ～療養型から老健へ～

入野ケアセンター 介護士 山田のぞ美

■帽子で事故防止 ～安全な施設生活を送るには～

かりん 介護福祉士 天野 幸司

■療養型から老健へ転換 ～利用者・家族からの相談をケアに活かす～

入野ケアセンター 准看護師 須佐 美紀

■頼られる老健を目指して ～認知症ケアパスの一担い手として～

萩の里 医師 萩原 秀男

〈敬称略〉

部 会 報 告

看護・介護部会

平成二十五年度の看護・介護部会では「職員の離職と職場風土について考える」をテーマに開催いたしました。（二回目 五十三名・二回目 四十名）

●職場環境とコミュニケーションの関係

講義はコミュニケーションが作り出す人間関係、職場の雰囲気についてといった内容でした。

講義を踏まえてのグループワークでは、「互いを理解し合うためにコミュニケーションは重要」「一方通行にならず、相手の意見も聴くことを意識する」といった前向きな意見もあつた一方、「受け取り方により意味が変わってしまう」などの現実的な問題も挙げられました。

また、どの施設も同じ悩みを抱えているという意見も多く聞かれました。

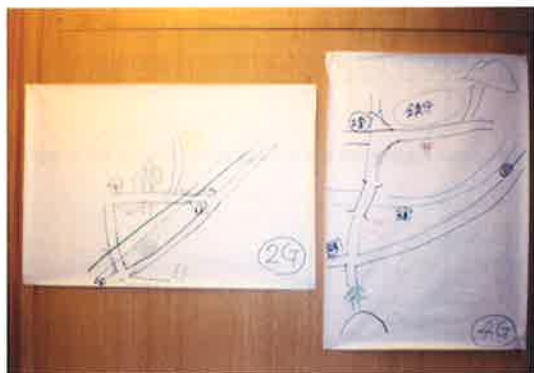
●ゲームを通じて感じられたこと

今回はグループごとにゲームをしていただきました。

ゲームを通じ「目標に向かつて協力することができた」

「ゲーム内でのコミュニケーションで相手がどんな人なのか見えてきた」など感想が聞かれました。

その他にも「グループ内にまとめ役の人がいてよかった」「相手の意見を聴き入れる（理解すること）が大切」などリーダーシップや相互理解の必要性も感じていたようです。



グループごとそれぞれのメンバーが持っているヒント（情報）と交換しあいながら正しい地図を完成させていく

またゲームを通じて「コミュニケーションの難しさ」も参加者の皆さんは改めて感じていたようです。

今回のテーマは参加者の意見にもあつたようにどの施設も抱えている問題のようです。

参加者の皆さんには「グループワークの中で他施設がどう対応しているかなど聞くことができた」との声もいただきました。

看護・介護部門は今後もさまざまなテーマを通じ施設間の情報交換の場としていきたいと考えています。

平成二十五年度 第一回 看護介護部会

日時 平成二十五年十一月八日（金） 十四時～十六時

場所 静岡県総合社会福祉会館 シズウエル 六階 六〇一会議室

テーマ 「職員の離職と職場風土について考える」

働きやすい職場って何だろう？

一、パワーポイントにより講義

西山ウエルケア 看護師 宮木愛子

二、グループワークによる討議

○主な討議内容 なぜ離職率が高いのか？

・職員間のコミュニケーション

看護職員と介護職員の隔がある。

職種間でそれぞれの仕事を理解し、助け合う必要がある。問題点について発言できる場があるとよい。小さな不満も解決していく。年長者に対する指導がしづらい。難しい。

・職場環境

業務に追われて余裕がない。賃金が安い。結婚・出産により仕事を続けられない。産休・育休や託児所が必要。リフレックス休暇などあるとよい。責任者、役職者は常に中立な立場で対応してほしい。経営と職場の考えにあるのでは？ 責任者の声掛けがほしい。職場の希望・要望をきいてもらえる場を設けてほしい。

・新人職員（新人が退職しやすい？）

他業種からの安易な転職で仕事そのものに適應できない、

職場の雰囲気になじめない、グループに入っていけない。
厳しい教育で新人職員がついていけない。

教育する側の人材が足りず、十分な教育ができていない。
担当者により教え方が違ったりするため、どうしてよいかわからなくなる。

・職場の雰囲気を変える。
・業務の手順、段取りを改善する。
・職員の意識改革を促す。
・研修会・勉強会などで個人の知識・技術の向上を目指す。

職員間のコミュニケーションを密にすれば二度手間などのムダを省くことができる。

職員の人間関係、個人の経験や能力を配慮しシフトの作成をする。

三、研修に参加して：

○コミュニケーションが重要であることがわかった。

・職種間、世代間のさまざまな人間関係を円滑にするために必要なことである。

・問題を解決できるように、話し合える場所があるといい。

・業務以外でも何でも話ができる雰囲気があれば、楽しく仕事ができるのではないか？

・日々の業務の中で人間関係の難しさを感じていたが、この研修で話を聞くことができ気持ち became 楽になった。

・もっと積極的に声をかけていきたいと思う。

○新人教育に対してもっと配慮が必要だと感じた。

・新人に限らずスタッフに対する教育・指導の方法の再検討が必要だと感じた。

・これから取り組むべき教育・指導のアイディアも得ることができた。



○他施設の看護・介護職員の方と討議できたことはとてもよいことでした。

・施設で働く職員の本音を聞くことができ、自分自身を見つめ直すよい機会となった。

・職種間のトラブルが多く、不満の要因になることがわかった。

○他施設のケアの方法の話が聞けてとても参考になった。

・入所者が重症化している。

・カロリーをしっかりと摂取できる分、体重の重い入所者が増え身体的に大変。

・問題がある中でも入所者・利用者に対してよいケアを提供しなければならぬ。

○労働環境の話が聞けてとても参考になった。

・他施設の状態や取り組みをいろいろ聞くことができ参考になった。

・他の施設でも同じ悩みを抱えていることがよくわかった。

・腰痛で悩む職員が多く、五十代以降の職員が頑張っている。

・若い職員が働きやすい施設環境を考えていきたい。

・他施設との違いも知ることができた。自施設の長所・短所を知ることができた。

・今後このような研修会で、悩みを相談できる機会を設けてほしい。

・上司に相談し、少しでも改善できる方法を考えていきたい。



リハビリ部会

平成二十五年十月十七日シズウェルにてリハビリ部会を開催しました。

三十七施設三十八名（理学療法士：二十五名・作業療法士：十二名・介護スタッフ：一名）の参加があり、五つのグループに分かれ、事前提出していただいたアンケートで挙げていただいた項目（各施設でのリハビリの実施状況やリハビリを提供する上で工夫していることや、新しいリハビリメニュー等）を中心にグループディスカッションを実施しました。アンケート一覧以外の内容についても意見交換を行なっているグループもありました。

日常業務を進めていく上で、特に加算算定にかかわるテーマやリハビリ計画、集団リハビリにかかわるテーマについて意見交換しているグループが多かったようです。

どのグループの座長も、慣れない進行役でしたが、積極的にかかわって頂き、意見交換、情報交換を盛り上げていました。

今回、理学療法士二十五名、作業療法士十二名、介護スタッフ一名の参加でしたが、同じ介護老人保健施設及び通所リハビリテーションのセラピストとして、他施設と意見情報交換をする機会も少ない事もあり、熱心に参加していただきました。

介護老人保健施設は地域リハビリの拠点として大きな役割を果たしており、今後も専門性の高いリハビリの提供を求められています。今回参加していただいたセラピストの皆さんが、自分の施設におけるリハビリを充実させ、質の高いサービスを提供したいという意欲の高い方が多かったように感じました。今後もセラピスト同士の繋がりを活かしていただく為にも、リハビリ部会を情報交換の有意義な場として開催していきます。

平成二十五年 第一回リハビリ部会

一、実施日 平成二十五年十月十七日（木） 十三時三十分～十六時

二、場所 静岡県総合社会福祉会館シズウェル六〇一会議室

三、内容 ①グループディスカッション

各施設での（個別・集団）リハビリの実施状況やリハビリを提供する上で工夫している事、新しいリハビリメニュー等についての意見交換

②施設情報交換

四、参加者 三十七施設三十八名

（内訳）理学療法士：二十五名

作業療法士：十二名

介護スタッフ：一名

五、感想

A～Eの五グループ（七～八名／一グループ）にグループ分けを行い、事前に提出いただいたアンケートで挙げていただいた項目を中心にディスカッションを実施しました。アンケート以外の内容についても意見交換を行っているグループもありました。日常業務を進めていく上で、特に加算算定にかかわるテーマやリハビリ計画、集団リハビリにかかわるテーマについて意見交換しているグループが多かったようです。どのグループの座長も、積極的ににかかわっていただき、盛り上げてくれました。同じ老健及び通所リハビリのセラピストとして、他施設の意見交換等をする機会が少ないこともあり、今後も職域部会を盛り上げていきたいと思います。



平成二十五年度 リハビリ部会

I リハビリの加算について

① 利用開始一カ月で訪問

内容：時間あいまい 書面で残す

加算、図面、動作の図をしつかりと残さないとならない

○訪問を始めたばかり

○リハマネ訪問は必ず行く。余裕のない限りとつていない
説明しにくい。見取り寸法、周辺をとっている事が多い

『ケアマネ契約時とります』往復一時間位 通所の時間帯を避けて訪問している

○訪問指導 カルテ記載 時間はあいまい

○訪問指導 全員に取ってもらっている 書式に玄関、段差を簡単に記載 介護力、問題点、ゴールを記載

人によつては、可動域を記載。場合によつては、手摺りの位置等を記載

○必ず取っている。不定期に訪問に行く。書類には写真を貼っている

○自立されている方は、指導の必要がない。(事務方から言われる)

○訪問と訪問指導は別。それなりの理由があるのではないか

○利用契約で話をしている

○屋内だけでなく、他の周辺の事でもよいのでは？

② 短期集中リハビリの場合は、月八回以上／週二回以上／一回四十分以上で実施している

③ サービスで行う

○自主トレの実施

○週二回で決まっている。回数を同じにしないと苦情が出る
ケアプランで決まっている

○通所六十〜七十名 個別三十名 集団 担当は置いている

○通所四十五名 リハビリ三十五名 四、五人

○一人で入所も通所も兼務 一日MAXでも十人

利用人数も減り傾向 三回やらないと利用しない

入所二十七名 通所二十名 リハ十名 訪問も行けない

II 集団リハビリについて

① 体操、パーキンソン体操、二十〜三十分

○水曜日、土曜日 レクリエーション 日付、季節、漢字クイズ、花の名前

天気の良い日は外に出る

○フロア二つ 六十、四十床 朝九時開始、口腔体操

何かしら提供 集団EX

個別 ボール投げる、自己紹介

動ける人、動けない人を分けている

塗り絵、作業、全員にやっている。

フロア一内浸透している

○集団EX 介護に任せている。1時間位

○カラオケ、集団での体操、介護独自に任せている

○十時〜十一時 レクリエーション 十一時五分 口腔体操

午後二時〜三時 外部よりボランティアが来る(月〜土)

外食(昼食)へ連れて行く、おやつ作り

○通常の短期集中で取っている(五回) そのうち三回は認知症のプログラムでリハビリ行っている

○カルテは別に記載している。
内容：ST訓練 迷路、音読、習字、編み物、家族のかかわりを多くとつて欲しい

計算、折り紙、散歩、季節の花を見る、花壇、献立作り

○月十三回以上行う場合は、介護職員の見守りによる自主トレニングへ移行している

④ 個別リハを二回、集団体操等を一回行う

⑤ 言語聴覚士により実施していた

○認知度等の測定(HDS-R)を行い、医師により診断を行っている

○脳トレを中心に実施している

○HDS-Rにて評価を行っている

○通所での実施は、どの手続きからはじめれば良いかわからない

- レクリエーション科 二名いる
- 十三回以上はない

自主トレ（一人でできる事を伝える）、介護職が散歩etc施設内で行っている

- 買物etcは中止、デイケアの利用時間内に散髪はいけない。金の支払いはいけない。ケアプランにうたっていれば良い。

- ②○自己都合で休んだ場合は、リハ加算Iをとる事は良い
- 退院したばかりで安定していないケース→とっている
- 週三回程度行っている

- 集団体操や計算問題等

- ③○三ヶ月以降 入所三回 それ以降二回実施

- 短期集中 五回 施設に残る人三回実施

在宅復帰加算 とっている 入所時に説明をしている
回転率は早い。ミドルステイ（暑い時期・寒い時期）の利用
一フロアが五十床↓四十
床になることもある。

○なかなか在宅に帰れなくなってしまうている。

- 短期集中 見込みのある利用者のみ実施

- 集団EX 八人で実施（書道・皮工作・藤工作など）

- レクリエーション部門が体操をやってくれる。マシントレーニング

- 短期集中が終わるときにケアマネが話をさせてもらう（在宅か他施設か）

- ④○認知症短期集中 とって

- 入所時 HDSIR、ST

- 入所時 HDSIR、ST



家族に話をし、意向を聞く

週三回のみ PTもかかわっている

- ⑤○集団で関わっても個別で対応しているケースもある

○週に一回は個別、一回は集団で対応

○集団の方が効率が良いが、拒否もある

○目的に合わせて個別・集団を使い分けられれば良い

○集団立位・歩行練習

○介護スタッフへの伝達などをして、生活リハビリへの関わりを意識している

Ⅲ 在宅復帰について

- ①○最初の関わり方

徐々にレベル低下。それに合わせる

在宅復帰を促すのは、施設ケアマネの話。ケアプランを説明する
帰るレベル、自宅に状況によって長くなっていく

○老健↓老健のケースもある

○地域性があつたりする？ 施設方針をかえた

○通所リハビリにつないで、通所・ショートステイをコントロールする。

○ショートステイ リハビリ提供できる

○家から離れていて、デイ活用が難しい

○退所日が決定したら、退所前訪問を行う

○在宅復帰に向けた、施設内研修を行う

○ゴール設定を多職種協働で行う

○家屋評価を行う

○できるだけ外泊を勧める

○病院へ相談員と一緒に行き入所目的を明確にする

○退所後、ショートステイ・通所・訪問リハでフォローしていく

IV 書類等フォームについて

- ① ①他の病院が使っている物を改良。A四サイズ
○できるADL・しているADL 項目 三段階
○口腔ケアの評価。詳しく書いてある。それ以外は規定
実地指導では何も指摘されなかった
- サイン（家族、本人） 通所（本人） 入所（家族、CM）
ケアプランでサインをもらえばOK。実地指導で指摘されたことは
ない
- サインの方が望ましい

② ②運動器の用紙

- リハビリ科内 評価用紙
- 口腔ケア 評価用紙
- 排尿、排便の回数
- 計画書 短期集中変わってから書く内容
- 予防計画書 重錘のg数、回数 マシントレーニング記入、
部位記入
- モニタリング評価表 握力、片足立位、10M歩行、TUG
支援の個別的マシントレーニング

③ ③出来るだけ簡易的なもの

- 家族に伝えるポイントとなる部分を載せている
- 目標・プログラム・普段の様子・変化点・ADL
- ADLをA・B・Cに分けて「できる」「している」がわかるように記載

V 生活リハビリ等について

- ① ①利用者の状況の応じてかえている
- 個別リハは二十分
- 生活二十四時間の中での活動量や介助方法を考える必要がある

VI 人員について

- ① ①専従のリハスタッフが必要
- ② ②リハビリケア専門士をおいている

VII その他

- ① ①利用契約時に作業療法士もしくは理学療法士が同行する
- ② ②寝たきりの利用者のポジショニング確認に関わるようにしている。
- ③ ③介護職員、家族に周知してもらうため、フロア内で歩行訓練などを行う
- 一日一時間フロアで行うようにしている
- 看介護職員の勤務体制に合わせてリハビリ時間を設けている
- ④ ④短時間のデイを検討している
- 送迎後のリハビリ室や介護予防教室の活用
- 療法科主催の施設内研修を行っている
- 老健は在宅復帰を目指す場所なので在宅復帰率を上げ、在宅復帰後のフォローをしていくのが望ましい
- 在宅復帰はなかなか難しい
- 在宅が難しくても、せめて入所生活を良いものにできればと思
い、取り組んでいる

支援相談員部会

平成二十六年一月三十日、静岡県総合社会福祉会館「シズウェル」にて平成二十五年度の支援相談員部会が開催されました。

参加施設五十二、（西部十七 中部十五 東部二十）、参加人数六十五（西部二十 中部二十一 東部二十四）名と多くの参加者で日頃抱えている課題等について地域性を鑑み、東部・中部・西部の近隣施設十二グループに分けグループワークを実施しました。

テーマとして①受け入れ・ベッドコントロール、②退所・在宅復帰、③医療に関する事、④家族調整や苦情相談、⑤施設内運営・その他とし

ました。地域の垣根を越え忌憚のない意見交換が行えた中、「ご本人やご家族」と「施設」そして「地域」を繋ぐ窓口としての役割を担う支援相談員として横の繋がりを持ち、今後ともこの様な情報交換の場を設けていただきたいとの意見もありました。

支援相談員部会(入所・短期入所・通所)グループワーク テーマについて

① 受入れ・ベッドコントロール

- ・新規者獲得についての取り組み(営業・相談・アピール方法など)
- ・ベッドコントロール方法(入院中やショート空床の活用等について)

・稼働率を上げる為の取り組み

・受入れ基準(医療レベル・薬価・家庭環境。その他)

・緊急事例の受入れ(虐待等)

・ショートのベッド数・受入れ状況

② 退所・在宅復帰

・入所期間の取り決め

・在宅復帰率のコントロールについて

・復帰にむけての支援方法・取り組み

・在宅復帰加算について

・特養・他施設への退所率や方法、近隣の状況

③ 医療に関する事

・ターミナル体制の有無・対応方法

・緊急時の対応方法

・施設対応が困難となった利用者への対応

・他科受診について

・所定疾患加算

④ 家族調整や苦情相談

・家族が不在・遠縁・高齢者・遠方の方等の受入れや緊急時の対応

・家族からの苦情や要望内容、処理方法

⑤ 施設内運営・その他

・多職種との連携方法

・ケアマネや他の相談員との役割分担

グループワーク発表について

グループ割名：A 施設名：ヒューマンライフ富士

主たるテーマ

① 各種加算について

② 他科受診について

要約

- ① 新しい加算も含め、なるべく加算をとる様にとの指示が具体的に施設内ででているかどうか？只、加算をとるには、まず相談員自身が加算の内容を確認する様にしなければならない。又、短期集中リハビリテーション加算など積極的にとりたいが人数や体制、時間の問題もあるため施設内でとれる加算については整理する必要がある
- ② 他科受診のシステムを理解して頂くには相談員が、どれだけ理解して“おとしどころ”をつけるかとの事が大変参考になった。薬剤費についても施設長が方針を決めていく事になるが、御家族御本人が希望されている物を変更していく様な事があつたり中止する様な事を説明しなければならぬ事がある。御家族とよく話をし相談員としてうまく橋渡しができればと思う。



グループ割名：B 施設名：あしたかケアセンター
主たるテーマ

- ① ベッドコントロール方法やショート活用状況
- ② ターミナル体制の有無・対応方法

要約

① 入院者等が出た場合、空ベッドを空けておける期間：二週間〜一月、空床のベッドが出た時は、各居宅事業所や医療機関へ空き状況をFaxし、入所やショートステイへつないでいく施設が多かった。ただショートステイに関しては、実際に利用までつながることは少ない。相談員として空けてはいけないという思いがある反面、現場から続けて入所させないでほしい大変だからと訴えがあると大変な思いもわかるだけに、ジレンマが残るという意見が多かった。

② ターミナルの意向確認については、相談、契約時にそれとなく説明し、保護者にそれとなく意識してもらうところが多かった。次の意向確認は、ターミナル時にDr、NSからというところが多かった。なかには、三ヶ月ごとの相談者会議の終わりに保護者に都度その時の想いを確認するという施設もあり、徐々に死（万が一のことが起こりうる）というものを保護者にも感じてもらうようにしているところがあった。丁寧な意向確認をされており、今後の施設のあり方として、利用者、家族のニーズ把握の仕方等、丁寧な対応が求められると感じた。



グループ割名：C 施設名：夢の樹の郷
主たるテーマ

- ① 受入れ・ベッドコントロール
- ② 医療に関する事

要約

① 県外へ営業に出る（遠方の方の受け入れと緊急時の対応については、一、連絡とれる様に待機してもらう 二、二十四時間以内に病院へ出向く事を了解頂く）

・短期利用 特色を出して（リハビリ強化の為や農繁期の忙しい時期、自宅のリフォーム等限定期間の利用）書式も簡素化して利用しやすい様にする

・空床をショートで利用し、長期的な療養は外させて頂くが治療後は優先的に受け入れる・検討会後にベット調整してしまう

② 検討会の資料に薬価代をのせる・経管栄養の受け入れ枠を決めている・新規の緊急の受け入れはできていない・ターミナル、老衰の方、がんの末期、年間十件受け入れている・精神科の方の希望が増えているが扱えない薬があり受け入れは難しい

施設の方針や現場の管理上の問題等、施設にとって適性な利用者かではなく、その利用者にとって施設が生活の場として適切な環境を提供できるかを相談員として見極めていかなければならないという事を再認識した。

グループ割名：D 施設名：グリーンス修善寺
主たるテーマ

- ① 他科受診について
- ② 内服や医療の提供について

要約

Dグループでは、ディスカッションというよりは各施設の実情を共有し他施設の取組を話し合う場となりました。内容については、テーマ①他科受診時の対応方法について各施設での対応を述べ、一番多くみられたのは緊急時を除き定期的な受診や受診まで期間がある場合はこ

家族に医療連携の書類を持ち受診してもらうという方法、しかし老健が抱える様々な医療制限をしっかりと理解している家族は少なく、内服をもらってきってしまったりと事後対応が必要な場合もあるとの意見もありました。また施設によっては利用者の送迎から付添までをサービスで行っている所もありましたが、マンパワーの問題や入院対応の際は職員だけでは困難など意見が出ていました。

②のテーマに関しては、どの施設でも薬価の問題や特定疾患などの治療に関して問題を抱えており、どの施設でも入所前であればご家族にしっかりと説明をして施設でできる範囲で納得してもらい入所としています。入所後に発症したケースでは施設としてはその医療費を負担しているという意見が多くありました。そして①・②両テーマで言えることですが、病院併設であるかないかも対応の差として大きく出ていると感じました。併設であれば連携がとり易い為、他科受診の際の算定範囲などはあまり問題にもならず、入所中の発症については病院施設医師と連携で次の対応がしやすい等メリットがあります。しかし医療度が高い利用者が多くなるというデメリットも存在します。併設でない場合は入院や受診をさせて頂いているとの考えがあり、対応が不可能という状況でなければ施設へ再度入所することが主で上記のような高額医療を負担しなければならぬケースがあると話し合いの中で意見がでました。まとめとして、今日医療の発展で増えている医療度、家族の医療ニーズに対し施設としてどこまで対応できるのかをしっかりと認識し相談員自身も医療的知識を持ち利用者の状態に合わせた施設の案内、連携をしていくことが相談員として必要になっていくと考えます。

グループ割名：E 施設名：介護老人保健施設きよみの里
主たるテーマ

① 受入れ・ベットコントロール

② 料金滞納者への対応

要約①

一、精神科病院からの紹介や特殊な内服、薬価の高い方の相談の対応について
対策として

① 事前に内服情報をFAXにて頂き、施設の薬剤師と医師と相談し、薬価を調べる。

② 受診頻度、受診の必要性を主治医に確認し、極力少なくできるか、延期できる相談。

二、判定会・検討会について

① 多床室の対応しかない場合は、認知症状が強い利用者（大声等）を断わるケースが多い

その点で個室のみの施設は男女比も問わず、スムーズ入所対応ができる、メリット、デメリット

断わる可能性がある利用者に対しては、申込み時に、受け入れが難しい場合もあることを伝え、トラブル、苦情の防止策をしている。

② 稼働率について・ショートステイの場合、近接にショートステイ専門の施設が新規参入し増えてきている為、申込み人数、利用者数が減少。

要約②

滞納者の事例を発表（時間がなく、2つの施設からのみ）

グループ割名：F

施設名：こみに、アリス草薙、萩の里、ケアセンター池の街、星のしずく
主たるテーマ

① 薬価と他科受診について

② 緊急時の対応方法

③ デイケアの個別リハについて

要約

① 事前に薬価を調べて調整する。薬の整理等、D r の考え方で必要なものは残していく。

他科受診について家族が理解するように相談員がしっかり説明していく必要があるが、継続治療が必要な場合、切るとは難しい。又家族希望の精神科等専門科への受診の対応を他施設はどうしているか。

② 基本はご家族に連絡し、対応しているが、夜間や遠方の場合、N s、相談員が同行し、ご家族と病院で待ち合わせる。

③ デイケアの個別リハの月十三回上限の上で、十三回以上利用する方のリハの対応について、月十三回でおさええている施設とサービスで対応している施設がある。今後十三回でおさえるようにしていく施設もあった。

グループ割名：G 施設名：コミュニティケア高草

主たるテーマ

① 老健における長期入所期間について。

② 認知症の方の受け入れについて。

要約

① 老健施設は 病院と在宅の中間施設として入所期間三ヶ月位を目途にリハビリを終えて在宅復帰を目標としたサービス施設としてつくられたのだが施設によつては、長期入所をしている方があるとのこと。社会的には入所を待っている方の受け入れの問題があり、公平さに欠けるのでは？他にターミナルケアなど、利用者、家族のニーズにあわせた老健施設のあり方を考えていく必要性も話し合った…。

② 認知症のある方を受け入れた後、精神疾患での問題が強くでること（夜間せん妄、便異食 e t c）があり職員が対応にかなり困っている現状がある。施設だけでかかえこまず、精神科病院との連携も必要であるのではないかな等、意見を出し合うことができた。

グループ割名：Hグループ 施設名：フォレスト藤枝

主たるテーマ

① 減免の説明・利用現況

② ケアマネや他の相談員との役割

要約

① のテーマについて 各施設で減免説明、利用現況について意見交換を行う。減免説明について、A 説明する B 説明しない C どちらとも言えない、との意見が出る。利用者割合については、三、四、五、六割と各施設さまざまな結果であった。

② のテーマについての役割分担について、相談員の役割は、A 入所まで B 入所までだが、

トラブルケースは対応 C 入所から退所まで、ケアプラン以外の家族対応との意見が出る。このバラつきについては、ターミナルケア加算、在宅復帰加算を行う施設かで、相談員の立ち位置が変わってきている。



グループ割名：（西部地区）Ⅰ 施設名：白梅ケアホーム
主たるテーマ

①入所率、在宅復帰への取り組み
②薬価の受け入れ基準、身元引受人が遠方、成年後見人等の受け入れ
要約

①入所率はA施設を除き各施設九十五、六％以上維持している。待機者についてはA・C施設はほぼ0、他施設は十名程度いる。待機者の中にはベッド数的に空きがあるが男性の為、男性ベッドが空くまでの待機、認知症で周辺症状がある為、認知症専門棟が空くまでの待機といった方が多い。A・D施設は在宅復帰に取り組んでおり、A施設は在宅復帰率が高い（その分入所率維持が難しい）。D施設は「限界まで在宅で見て、その後施設へ入所」という地域の特性がある為在宅復帰率はあまり高くない。他施設は在宅復帰の取り組みはあまり積極的ではなく、その理由として職員の不足、入所率の維持を求められているといったものがあつた。

②薬価の基準は各施設で千差万別だが判定会で検討したり、変えられる薬はジェネリックに変えて頂いたりしている。身元引受人がいない遠方といったケースは殆どない。成年後見人を受け入れている施設もあり病院受診時の治療や死後の手続き等は事前に話し合い同意を得ておく事で対応。



グループ割名：K 施設名：さいわい
主たるテーマ

①ターミナルケアについて
要約

ターミナルケアについては、各施設の医療状況（併設、関連医療機関の有無等）により、実施への影響がある。又、施設の方針により実施していない（積極的な実施をしない）所が多かった。ただし経営面から考えていくと大きな単位数の獲得や稼働安定等メリットに挙げられるため、今後の運営という点においては、施設方針を考え直していくこともできるかもしれない。ターミナルについてはケア研修は多くあるが、相談員レベルでの実務的研修は多くない。（プランの立て方やカンファの方法等）実務研修が増えれば挑戦する施設も現状よりは増え、老健に期待される役割を実施できるようになるかもしれない。



栄養部会

平成二十五年 第一回栄養部会

平成二十五年年度の栄養部会が静岡県総合福祉会館「シズウェル」にて平成二十五年十一月十五日に三十施設三十一名の参加を頂き開催されました。

栄養部会ではグループディスカッションを行いました。今回の議題は、「一、軟菜食、ソフト食の考え取り組み」「二、好き嫌い(嗜好)」「三、摂取量の少ない方への対応」「四、栄養ケアマネジメントの取り組み」「五、非常食の備え」です。これらの五つのテーマにそって、各施設の取り組みや困っている事など、活発な意見交換を行い、グループ毎に発表して頂きました。「好き嫌い(嗜好)」では、個人対応という形で嗜好調査などを実施し、ご家族の方の意見も聞きながらも、個人の意見を尊重するようにしているという施設がほとんどでした。どうしたらおいしく食事を召し上がって頂けるか?を皆さんが、色々試行錯誤している様子が伺えました。「栄養ケアマネジメントの取り組み」では、経管栄養や、リスクによって違った取り組みをしている施設が多く、二週間ごとの見直しや、半年、三ヶ月、一カ月など状態に合わせて見直しを行い、対応をしている施設もありました。入所者全員の栄養状態を把握し、栄養士一人では対応出来ないという意見もあり、今後の課題も見えて来た様に思います。「非常食の備え」については、現状として完璧に備えているところは少ない様に感じましたが、どこまで備えるのか?どこまで想定して備えれば良いのか?が難しいという意見がありました。

今回の栄養部会のディスカッションでは、施設での生活を楽しく過ごして頂きたい、おいしいお食事を召し上がって頂きたいという気持ちで日々取り組んでいるという事が感じられる意見が多くでした。皆さんの意見を、今後の取り組みの参考にして頂き、より良い施設運営が出来ます事を期待したいと思います。

平成二十五年 第一回 栄養部会 報告書

- 一、開催日 平成二十五年十一月十五日(金) 十三時三十分～十六時三十分
- 二、場所 静岡県総合社会福祉会館シズウェル 六〇一号会議室
- 三、参加施設 三十施設(五グループ)
- 四、内容 ①グループディスカッション ②各グループ発表 ③まとめ
- 五、議題

①軟菜食、ソフト食の考え取り組み

- ・ソフト食を取り入れている施設は、参加施設中四～六施設(十五～二十%)と少なかった。
- ・在宅復帰後に自宅でソフト食をどのように提供すれば良いか?等相談もあつたとの事。
- ・軟らかくならない物は最初から取除く、繊維の多い、消化に悪い食事は出さないなどの工夫。
- ・軟菜食は、施設によって規定はあるが、ほとんどの施設で対応していた。

②好き嫌い(嗜好)

- ・ほとんどの施設で個人対応という形で嗜好調査などの手法を用いている。
- ・ご家族等の意見を聞きながらも個人の意見を尊重する様にしている。
- ・一方で、禁食が多くなると現場も大変になる為、通所は可、入所は不可にするなど対応を分けたり、禁食の見直しを定期的を実施している施設もあった。

③摂取量が少ない方への対応

- ・ゼリーなど補助食品を使っている施設が多い。
- ・一部施設では本人の好きなものをご家族に持ってきてもらう事で対応している。

- ・食べられないのは様々な理由が考えられるが、何が原因なのかを調べる事が大事。

- ・メンタル面で落ちていると食欲が無くなる。(入所に対して納得していない、急な環境の変化など)為、時間をかけて検討、相談をしている。

④栄養ケアマネジメントの取り組み

- ・経管栄養やリスクによって違った取り組みをしている施設が多く、二週間ごとの見直しや、リスクによって半年、三ヶ月、一ヶ月など状態に合わせて対応をしている。

・体重を指標にしている施設が多いが、その他、定期的に血液検査もしている施設もあった。

⑤非常食の備え

・殆どの施設は三日分備えている。内容は様々で、利用者分だけの所もあれば、地域住民も含めた備えをしている施設も、倉庫を二ヶ所に分けたり、業者に保管してもらっている施設もあった。

・飲料水はペットボトル保存水を購入したり、停電時でも使用できる災害対応の自動販売機の設置、また、川や風呂の残り水でも使用できる浄水器を備えている施設もある。その他、野菜不足により、栄養が偏る事を考え、賞味期限の長い野菜ジュースを備蓄している施設もあった。

・ミキサー利用者の非常食として、濃厚流動食を準備している。

・炊き出し訓練をしている。

・南海トラフ地震想定では、近畿、四国、九州方面まで被害が及び、流通が途絶える為、一週間の備蓄を用意するべきと防災研修などで聞くが、非常食を置くスペースの確保、又倉庫の場所によっては津波や土砂、液状化現象等で非常食自体が使えなくなる可能性もある為、設置場所をどうするかなど、非常食についてはまだまだ検討するべき事が多い。

⑥その他

・脱水予防の水分補給にポカリスエットやお茶ゼリーを使用している。

・トイレをいやがる利用者には出さないが、看護介護職員が誤嚥しないように見守り、管理している。

△まとめ▽

以上、各グループから様々な取り組みの紹介があった。

グループディスカッションで情報交換した内容を、各施設に持ち帰り活用していく。また、今後も周辺施設との情報交換を行い、利用者のニーズを考慮した栄養管理を行っていく。

栄養部会研修参加のレポート

栄養部会で私が感じたことは、施設の栄養士として抱えている不安や悩みを打ち明け、共有しあい、解決の糸口を互いの経験と智慧を持つて見つけようとしていたことです。

ある施設の栄養士さんは、好き嫌いの激しい認知症の入所の方の体重がなかなか増えないことで悩んでいました。そうすると、それぞれの施設の栄養士さんが、実際自分たちのやっている方法を発表しました。私も施設で決められたエネルギーの範囲内やゼリーやアイスをつけ、栄養のバランスを考えながら主食や主菜の量を調節することを発表しました。

施設の栄養士さんがこれほど集まり、意見を交換し合える場があるということは、ありがたい貴重な経験になったと思います。

人の健康を管理する試行錯誤の中、栄養部会で得た情報を発展させ、これからの職務をよりよいものに変えていく努力を続けていきたいと思っています。

管理栄養士



通所リハビリ部会

平成二十五年度 通所リハビリ部会

平成二十五年度のリハビリ部会が、静岡県総合福祉会館「シズウェル」にて平成二十五年十月二十三日に二十八施設三十九名の参加、又平成二十六年二月十八日には三十二施設四十六名の参加を頂き、二回にわたって開催されました。第一回の部会では、「利用者から選ばれるサービスを目指して」をテーマに人気行事紹介や各施設の問題点をグループ討論しました。第二回の部会では、第一部に各施設から寄せられた議題をもとに質疑応答し、業務状況を発表して頂きました。どの施設も同じような苦勞を抱えていると

いう実情の確認や自分達施設では思いつかなかった工夫やアイデアを聞く事が出来ました。こうした部会において、普段とは違った見解や意見を参考にすることができ、利用者様により良いサービスを提供する為の大きなヒントになったと思います。



第二部では、各施設の人気レクや集団体操の紹介を行い参加者全員で大きな円となり身体を動かしました。楽しいレクの内容で、すぐにでも取り入れたいと必死にメモを取られている様子でした。利用者様を笑顔にするような声かけや盛り上げ方、笑いの取り方等勉強となる部分が多くありました。レクリエーションでは、「笑顔・活力」を生み出す事が重要。どの施設もその部分において工夫がされていると感じました。今後も参加して頂く皆様には、多くの意見交換と密な連携を図っていきたくと考えております。この通所リハ部会が、皆様の有意義な場として活動できますようお願いいたします。

通所リハビリ部会に参加して（アンケート）

個々の施設でそれぞれの悩みがあり、試行錯誤しながら日々の業務をしているのがよく分かりました。他施設に比べ恵まれている事もありマインスマス面ばかり気になりがちだった所も反省でした。いろいろな音楽体操やレクをたくさんみせていただき今後活用していきたいと思えます。

他施設の状況を細かく聞けて、大変勉強になりました。グループワークではレクだけではなく利用者・職員との人数割り等、少ない職員体制の中で、レク、リハビリ、入浴を満足頂ける様、工夫をされていると分かりました。実際に集団体操やレクを行っていただき、当施設でも行ってみたいと思います、参考になりました。



とても良い勉強になりました。グループワークと聞いた時、どうしようかと悩んでいましたが、他の施設の方の意見が聞けて参考になりました。自分一人で考えていたことも聞けて良かったです。レクの紹介もとても良く自分の施設に戻りたためてみたいと思います。ありがとうございます。

いろんなお話が聞けて、とってもいい時間が過ごせて良かったと思います。グループワークの話の中で、自分の所とくらべる事も出来て、勉強になりました。帰ってレクをいろいろとスタッフいっしょにやって見ようと思います。

大変雰囲気も良く、勉強させていただきました。リハビリということもあり、抱えている悩みは同じようなものであったと思います。レクリエーション等への取り組みも、しっかり施設へ持ち帰り提案していきます。初めての部会でしたが是非出席させていただきます。



人気レクの紹介、たいへん勉強になりました。当施設でも、体を動かす体操は行ってきましたが、リズムや歌に合わせて行くと楽しさが倍増することが身をもって分かりました。今後は当施設でもとり入れ、利用者様が楽しく行えるレクを実施していきたいと思います。ありがとうございます。



★人気あるレク紹介

レク紹介、又は集団体操の紹介

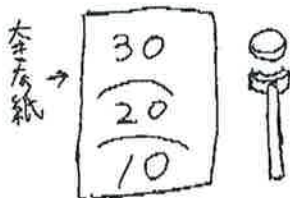
名称 (集団レクリエーション)

*具体的にわかりやすく、書いて下さい。

内容:

・輪投げ

・ヘタボード



・ホウリング

・缶釣り

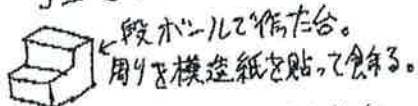


・魚釣り



いしゃくを付けるさおの先のクリップを
いしゃくに付けて釣る。

・的当てゲーム



牛乳パックやティッシュ箱を装飾したものを
的にし、落とす個数を競う。

・タオル体操

音楽をかけながら、タオルを使い、体を動かす。
(例:机を拭く動きや体をこすり洗うような動きをする)

・風船バレー

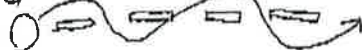


網と利用者様、1列目と2列目の利用者様の
すき間を出来るだけなくす。

・言葉集めゲーム

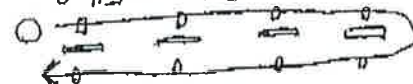
ひらがな50音+「ん」「や」「ー」が
書かれたカードを使い、
例題の文字を利用者様同士で
探してもらう。

①リハビリレクリエーション(歩行訓練)



テープを床に4本貼り、その間を
ジグザグに歩く。余裕があれば往復する。

②画用紙で三角形の小さな障害物を作る。
8個並べ、それを越えて歩いて頂く。



マヒのある方は、出来るだけマヒ側で
歩いて頂く。

☆ 通所リハ部会当日に、ご紹介頂ける施設がございましたら、下記に○をつけて下さい。

各施設間の通所リハサービス向上の為、積極的な参加をお願いします。

行事紹介 (OK)

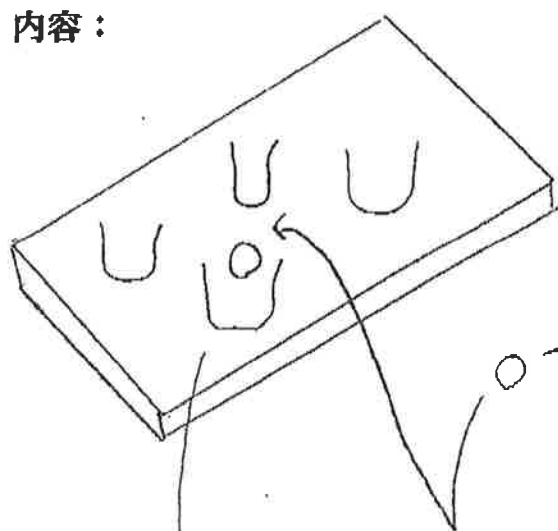
★人気あるレク紹介

レク紹介、又は集団体操の紹介

名称 (ビンポンゲーム)

*具体的にわかりやすく、書いて下さい。

内容：



色々なサイズのフップ(ガラス)
バケツ、空缶を動かない様に
固定する



椅子、車椅子に坐って頂き、
ビンポン玉を6コ投げ入れる
ガラスのフップを使用すると
実際に玉が入ったのを皆の目
で見えるので「入った」がわかり
易い。カバない人でも片マヒの
方でも、マヒのない方でも誰でも
参加出来る。思い通りに入らな
いので入るととても盛り上がる
ゲームです。

☆ 通所リハ部会当日に、ご紹介頂ける施設がございましたら、下記に○をつけて下さい。

各施設間の通所リハサービス向上の為、積極的な参加をお願いします。

行事紹介 (OK)

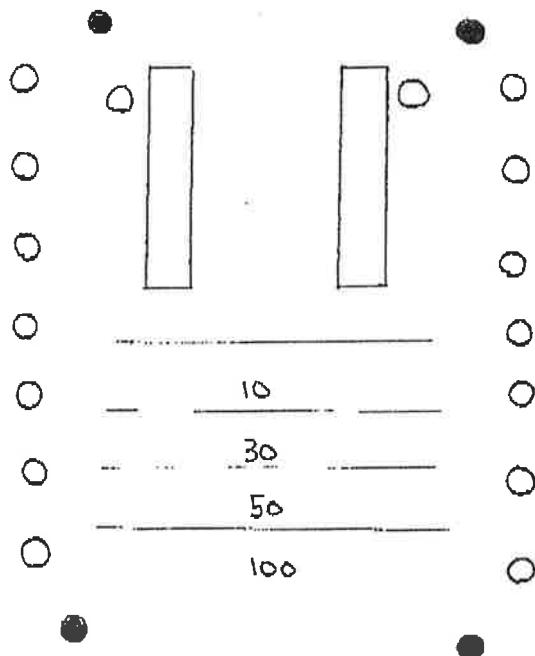
★人気あるレク紹介

レク紹介、又は集団体操の紹介

名称 (チーム対抗 輪を転がそう)

*具体的にわかりやすく、書いて下さい。

内容：



- ・利用者を2チームに分けて、チーム名を決める。
- ・1人輪は3本。スタートは最後方の利用者から物送りのように先頭へ送る。
- ・3本転がし点数を数え、記録していく。
- ・投げ終わったら利用者交代する。

☆ 通所リハ部会当日に、ご紹介頂ける施設がございましたら、下記に○をつけて下さい。
各施設間の通所リハサービス向上の為、積極的な参加をお願いします。 行事紹介 (OK)



第10回 東海・北陸ブロック
老健大会

日時 2014.6.12(木)・13(金) 会場 アクトシティ浜松
静岡県浜松市中区板屋町111-1

主催/東海・北陸ブロック老人保健施設連絡会
運営/静岡県老人保健施設協会
後援/公益社団法人全国老人保健施設協会

お問合せ 静岡県老人保健施設協会事務局
介護老人保健施設ヒューマンライフ富士内
TEL.0545-36-0511 FAX.0545-36-2677

富士山
ユネスコ世界文化遺産登録

その人らしく美しく

第10回 東海・北陸ブロック老健大会 静岡

「その人らしく美しく」

を大会テーマに、上記日程にて開催致します。

第10回記念大会を静岡で行うという事で、
100演題1000人参加を目標にしております。

全国大会には多くの職員を参加させられないなか、ブロック大会
で全国大会の様な情報(ランチョンセミナー、企業展他)を得られ、
参加しやすい大会を目指して準備を始めています。

皆様の多数の参加と素晴らしい発表を期待してお待ちしております。
宜しくお願いします。



大会記念講演
草野 仁氏



平成25年度 表彰

第23回 全老健 美ら沖縄大会 演題発表「優秀奨励賞」

★老人保健施設はまおか

水野かずみ 尾崎勝彦

活動メニュー選択制「自立支援」への取り組み
活動メニュー選択制の活性化に向けて



施設表彰 (加入20年以上)

★介護老人保健施設リバブルケア

★介護老人保健施設三方原ベテルホーム

★介護老人保健施設あかつきの園

★老人保健施設みくりや園



第25回

全国介護老人 保健施設大会

岩手

■会期：平成26年

10月15日(水)～17日(金)

■会場

- ・盛岡市民文化ホール (マリオス)
- ・いわて県民情報交流センター (アイーナ)
- ・ホテルメトロポリタン盛岡 他

- 大会会長／長澤 茂 (公益社団法人 全国老人保健施設協会岩手県支部長)
- 主 催／公益社団法人 全国老人保健施設協会
- 大会事務局 (一般社団法人 岩手県介護老人保健施設協会)

〒021-0021 岩手県一関市中央町2丁目4-2 医療法人三秋会 内
TEL.0191-48-5120 FAX.0191-48-5121

大会HP <http://www.roken2014-iwate.jp>

平成25年度 静岡県老人保健施設協会 事業報告

月 日	事 業 名	内 容	備 考
H24.4月24日(水)	幹事会	静岡市 総合社会福祉会館	
5月10日(金)	平成25年度 定期総会	静岡市 もくせい会館 14:00～15:00	
5月16日(木)～17日(金)	第9回 東海北陸ブロック老健大会	岐阜県 長良川国際会議場 演題発表 62演題(静岡県7演題) 基調講演、特別講演	座長として1名派遣 施設は自由参加
6月28日(金)	全老健 定期社員総会	東京品川プリンス	
7月24日(水)～26日(金)	第24回 全国介護老人保健施設大会 石川	石川県立音楽堂、ホテル日航金沢他	座長として4名派遣 施設は自由参加
7月31日(水)	幹事会	静岡市 総合社会福祉会館	
8月7日(水)	介護労働力安定センター 懇談会	静岡市労働局	
9月6日(金)	ふじのくに安心地域支え合い体制づくり県民会議	静岡県庁	
10月17日(木)	第1回 リハビリ部会研修会	静岡市 総合社会福祉会館	
10月23日(木)	第1回 通所リハビリ部会研修会	静岡市 総合社会福祉会館	
10月25日(金)	東海北陸ブロック大会 打合せ会	浜松市 アクトシティ浜松	
10月25日(金)	幹事会	浜松市 アクトシティ浜松	
11月8日(金)	第1回 看護・介護部会研修会	静岡市 総合社会福祉会館	
11月15日(金)	第1回 栄養部会研修会	静岡市 総合社会福祉会館	
11月26日(火)	幹事会	静岡市 総合社会福祉会館	
11月28日(木)	全国老人保健施設協会支部事務担当者会議	東京都 東京グランドホテル 事務局長出席	
11月29日(金)	静岡県老健施設職員研修発表会	静岡市 もくせい会館 11:00～15:10 1. 演題発表 9題	
12月5日(木)～6日(金)	全体研修会 一泊実務者連絡会(臨時総会)	熱海市 KKRホテル熱海 静岡県危機管理部危機情報課長 滝田和明様	
H25.1月28日(火)	幹事会	静岡市 総合社会福祉会館	
1月30日(木)	第1回 支援相談員部会研修会	静岡市 総合社会福祉会館	
2月18日(火)	第2回 通所リハビリ部会研修会	静岡市 総合社会福祉会館	
2月20日(木)	第2回 看護・介護部会研修会	静岡市 総合社会福祉会館	
3月1日(土)	第1回 編集会議	静岡市 機関紙「老健しずおか」第18号編集	
3月14日(金)	支部長会 臨時社員総会	東京都 東京プリンスホテル	
3月15日(土)	第2回 編集会議	静岡市 機関紙「老健しずおか」第18号編集	
3月17日(月)	災害時連携等に関する協定 調印式	静岡県庁	
3月27日(金)	雇用管理者講習	静岡市 もくせい会館	

■平成25年度 新規加入施設：2施設

みずほケアセンター、もくれん

■合計加入施設数：103施設

医療法人社団 愛康会

タカネ園

〒410-0305 沼津市鳥島611-1
TEL.055-967-8800
FAX.055-967-3600
E-mail:takaneen@shizuokanet.ne.jp

- 平成3年8月開設
- 入所定員100名
- 通所定員60名



タカネ園は四方を茶畑に囲まれ駿河湾を見渡す、自然豊かな四季の移り変わりを感ぜられる環境にあります。園内でも、利用者の皆様が季節を感じられる様、様々な季節の場を実施しております。中でも、タカネ園の果樹園で穫れた香り豊かな『ゆず』の季節湯は好評です。今後も、利用者の皆様が笑顔で楽しく四季を感じながら過ごして頂けるように日々努力していきます。

医療法人社団 富士恵仁会

リバブル ケア

〒418-0105 富士宮市原682
TEL.0544-54-1800代
FAX.0544-54-0522
E-mail:livable@sweet.ocn.ne.jp

- 平成2年4月開設
- 入所定員72名
- 通所定員40名



『今日の笑顔を明日へつなぐお手伝い』
私達は「自分の家族の一人が利用されている」この様な気持ちで、明るく家庭的な雰囲気の中、イキイキとした毎日が送れるように全職種スタッフ連携で頑張っています。
川柳大会から（利用者様二句職員一句）
◎ 卒寿過ぎ 一寸地味かな この服は
◎ 五回目 成人式のお祝いに
◎ ああ笑顔 今日は何回 ひきだせる？

医療法人社団 喜生会

ヒューマンライフ富士

〒417-0801 富士市大淵3901-1
TEL.0545-36-0511
FAX.0545-36-2677
E-mail:kiseikai@za.tnc.ne.jp

- 平成5年7月開設
- 入所定員195名
- 通所定員60名



当施設は富士市の北部、駿河湾を見渡す静かな環境に位置しています。新富士病院をはじめ健康管理センター、老健、各種在宅事業も併設しており、機能と役割を明確にしつつ、連携しながら大規模施設としてのメリットを生かし、「地域包括ケアの担い手」として、更なるサービス向上に努めます。地域に必要とされる施設を目指します。

医療法人社団 康生会

みくりや園

〒412-0042 御殿場市萩原354-1
TEL.0550-83-3567
FAX.0550-82-3887
E-mail:mikuriya@d4.dion.ne.jp

- 平成4年5月開設
- 入所定員67名



当園は、本年五月より、名称を「みくりや園」から「Kanon（カノン）」に変更し、御殿場市新橋宇野中一七五の一へ新規に移転をする予定です。
移転先では、入所定員六十七名から一〇〇名へ増床し、多床室では廊下側のベッドでも光と風が感じられる個室の多床室を採用しています。また通所リハビリは、半日のリハビリ特化したサービスを提供します。

医療法人社団 敬寿会

安寧の郷

〒410-2315 伊豆の国市田京1258-44
TEL.0558-76-8100
FAX.0558-76-8101
E-mail:annei-jimu@yr.tnc.ne.jp

- 平成6年5月開設
- 入所定員150名



『安寧の郷』は、天城連峰を見渡す風光明媚な環境に位置し、ご家族そして地域の皆様に支えられながら二十年を迎えました。当施設ではご利用者様に一日一日を楽しく充実した生活を送っていただける様、安心して安全への配慮はもとよりリハビリの充実、季節に応じた施設行事を実施しています。これからも地域に根差し求められる施設を目指し職員一同、日々邁進して参ります。

（一）富士心身リハビリテーション研究所

富士ケアセンター

〒418-0035 富士宮市星山1129
TEL.0544-22-3111
FAX.0544-22-3907
E-mail:fujicare@dream.ocn.ne.jp

- 平成6年4月開設
- 入所定員100名
- 通所定員60名



当施設は富士宮市の南部に位置し、明星山の豊かな緑に囲まれた静かな環境にあり、雄大な富士山の全景を施設正面に望み、季節ごとの変化を楽しむことができます。
併設の富士リハビリ病院と連携し、身体的なリハビリだけでなく精神面でのケアや認知症への対応にも力を入れております。今後も利用者様とご家族様、地域との繋がりを大切にし、日々努力していきます。

医療法人社団 聡誠会

長泉ケアセンター 博寿園

〒411-0945 駿東郡長泉町本宿418-1
TEL.055-989-1121
FAX.055-988-6565
E-mail:hakujuen@apricot.ocn.ne.jp

- 平成7年4月開設
- 入所定員100名
- 通所定員40名



博寿園は雄大な富士山の麓に位置し、今年で開設二十年目を迎えました。入所者百名、通所四十名、短期入所等、充実した施設と地域の方々より多くの支えを頂き、季節の行事やボランティア等、毎年盛大に取り行い、ご利用者様ご家族の方にも楽しんで頂いております。また、年中無休診療を行っている池田病院が隣接しており医療面においても安心して頂けます。

社会福祉法人 静和会

梅名の里

〒411-0816 三島市梅名578
TEL.055-977-8686
FAX.055-977-8090

- 平成6年8月開設
- 入所定員100名
- 通所定員50名
- 予防16名



梅名の里は、今年で開設二十年目を迎えます。『地域とともに暮らす梅名の里』という施設理念のもと、施設を利用される方だけでなく、地域との関わりを大切に考えています。行事や活動に参加する度に、私達が地域の皆様に支えられている事を実感しています。これからも地域の中で通所リハや訪問サービスを実施して、利用者様に喜んで頂けるように努力して行きます。

あすなろ

当施設は、今年で十九年目を迎えます。開設当初より、一貫して地域に開かれた施設づくりを目指してきました。

『一人ひとりが、熱く優しい心を持ち、豊かな知識を身につけ、日々、技術を磨いて、多職種協働のサービスを提供する』ことをスローガンとして、家庭的な雰囲気大切に、職員一同が笑顔で明るい介護を行っています。

お　お　ひ　ら

沼津市の大平地区に開設し、今年で十九年目を迎える施設です。

「明るく」「優しく」「温かく」をモットーに、「家庭復帰の足掛かりの場」となるよう職員一同、笑顔でがんばっております。

季節ごとの行事食を楽しみにして下さる利用者さまも多く「おいしい」との声も聞かれます。

まきょうの郷

ききょうの郷は、訪問介護と居宅介護支援事業所を併設しており、多機能サービスを提供して多様なニーズにお応えする体制を整えております。「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念とし、介護予防から生涯を通じて個々に合った生きがいを見出せるよう、リハビリにおいても生活や人生の再生、回復に主眼をおいております。

熱海ナーシングホーム 翔寿園

当園では、ご高齢者が安らぎの日々を過ごされるために、自立と新たな能力を高め、ご家庭にスムーズに戻れるようきめ細かいふれあいと共にリハビリテーションを中心に、看護・介護・医療・生活ケアを行います。地域の方々に開かれた施設を目指し、少しでも皆様のお役に立てるよう努めております。

のそみ

「のぞみ」はみかん畑に囲まれた豊かな自然の中にある施設です。居宅介護支援事業所、地域包括支援センターが併設され、関連（透析）施設として「伊豆のさと診療所」が隣接し、透析加療中の方でも安心して当施設をご利用になれます。「真心と責任」を心がけ、利用者様の側に立った「安心できる」サービス提供を職員一同、目指しています。

ラ・サンテふよう

当施設では全ての職種が連携を組み、在宅復帰・自立支援のためのリハビリテーションを展開しています。介護福祉士や理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職員が、利用者が在宅で生活する上で不安に思う事を克服できるようお手伝いしています。ご自宅に戻られてからも体調に不安を感じた際は、もう一度入所しリフレックスして帰られる方もいらっしゃいます。

河津おもと苑

当苑は、伊豆半島東部に位置し、河津さくらで知られた場所にあります。毎年、極寒の中、町内は濃いピンク一色になります。施設は国道より2km程山あいに入り、自然に囲まれた静かな所です。利用定員も少ないですが、地域に密着した施設を目標にしてきました。なかなか外に出る機会が少なくなつた方が、思い切つて利用することにより、なつかしい人に会つて喜んでいる姿をみるとホツとします。そんな場所でありたいと思います。

みゆきの苑

みゆきの苑は、富士宮市のほぼ中央に位置し、交通の便は良く南富士病院前バス停下車一分、富士山を背負った名勝の地に立地しております。入所定員一〇九床（うち認知症専門棟三十六床）通所定員七十名の、南富士病院併設の施設として、地域の皆様やご家族とのつながりを大切に考えた運営を行っております。

なぎさ園は、伊豆半島最南端に位置する介護老人保健施設です。海と山に囲まれた静かで、暖かい気候の中、「手から手へ心から心へつなげる施設」の理念に掲げ「生活空間を」を、なぎさ園の取り組みながら、安心と安全を考慮し、地域に根ざした施設として、笑顔あふれるサービスを提供しています。

医療法人社団 静岡メディカルアライアンス

なぎさ園

〒415-0152 加茂郡南伊豆町湊674
TEL.0558-62-6800
FAX.0558-62-7255
E-mail:nagisaen@po2.across.or.jp

- 平成13年4月開設
- 入所定員80名
- 通所定員20名



地域の要介護高齢者の一日も早い家庭復帰と社会復帰を支援する施設です。在宅復帰に向けたネットワークを構築し、最適な療養環境で最善のケア・リハビリテーションを提供。ご利用者の方々が心身ともにリフレッシュし、楽しく有意義な生活が送れるよう支援します。医療はグループの西伊豆病院がバックアップ。ボランティアを積極的に受け入れて地域に貢献しています。

医療法人社団 健育会

しおさい

〒410-03514 加茂郡西伊豆町仁科243-1
TEL.0558-52-3000
FAX.0558-52-5577
E-mail:K-hanaki@healthcare-systems.co.jp

- 平成12年3月開設
- 入所定員50名
- 通所定員30名



当施設は、赤十字施設として併設の伊豆赤十字病院と連携し、人道・博愛の赤十字精神のもと、ご利用者様のお気持ちと、尊厳を尊重したケアサービスと在宅復帰・在宅支援に力を入れ、地域に根ざした施設として取り組んでおります。明るく家庭的な日常生活を楽しく過ごせるよう「利用者に寄り添い、その人らしさを大切に」をモットーに職員一同心がけています。

日本赤十字社 静岡県支部

グリーنز修善寺

〒410-2413 伊豆市小立野100-2
TEL.0558-74-3300
FAX.0558-74-3302

- 平成14年4月開設
- 入所定員100名
- 通所定員30名



当施設は、東名富士インターから北東へ約五分のところに位置しています。短期集中、個別リハビリ、転倒予防体操・作業療法、学習療法を実施し、また書道・絵手紙・手芸・紙バンド・踊りの教室を開催しています。災害に強い施設を目指して井戸を掘り、万が一の際には被害を最小限に抑え地域の方の受け入れができる様に、安全な生活が送られる様に頑張っています。

医療法人社団 広見会

ひろみ

〒417-0801 富士市大淵39-1
TEL.0545-21-6600
FAX.0545-21-1003

- 平成14年4月開設
- 入所定員90名
- 通所定員40名



当施設は沼津市中西部、愛鷹山越しに富士山を望む、国道一号线バイパス沿いに立地しています。日頃の業務の中で、利用者様とのふれあいを大切にしています。施設内のクラブ活動の充実、園芸屋外活動として手作りの庭を造園し、利用者様による四季折々の草花の植栽や、毎月屋外での散歩や季節行事(野点の会、流しソーメン、芋煮会等)を楽しんで頂いております。

医療法人社団 愛康会

椎路の里

〒410-0302 沼津市東椎路32-1
TEL.055-927-3900
FAX.055-927-3700
E-mail:shijinosato@alpha.ocn.ne.jp

- 平成15年4月開設
- 入所定員100名
- 通所定員120名



サン静浦は介護者であるご家族の負担を軽減するため、ご安心いただけるサービスを提供します。又私たちは介護するご家族をサポートすることも重要視しています。困ったことや悩みごと、心配ごとはお気軽にご相談ください。介護保険等のサービスを使い、ご自分の生活を大切に家族全員が幸せになれるようにお手伝いいたします。

医療法人社団 勝友会

サン静浦

〒410-0106 沼津市志下344-1
TEL.055-934-6000
FAX.055-934-8288
E-mail:sunshizuura@minos.ocn.ne.jp

- 平成14年2月開設
- 入所定員100名
- 通所定員30名



みしゅくケアセンターわか葉は、東名裾野病院の併設施設として、平成十五年十一月に開設しました。雄大な富士の裾野に位置し、一般棟五十四床、認知棟四十六床、通所リハビリテーション定員四十名の施設として、地域の皆様に支えられて十一年目を迎えました。家族や地域との結びつきを大切に、各専門スタッフの下、利用者様に合ったケアが提供できる様、目指しております。

医療法人社団 榮紀会

みしゅくケアセンターわか葉

〒410-1107 裾野市御宿1475
TEL.055-997-8181
FAX.055-997-8302
E-mail:e-wakaba@orion.ocn.ne.jp

- 平成15年11月開設
- 入所定員100名
- 通所定員40名



当施設は東洋一の湧水量を誇る柿田川に囲まれた、自然豊かな場所に位置しています。開設十年の経験を活かし、日々変化することご利用者様のニーズに対して『今日できる事は今日提供する』を心がけております。元気で活気ある生活をしていただく為、季節を感じる行事や食事、作品作りに取り組んでいます。ご利用者様の夢を叶え、大樹となるべく研鑽を積んでいきます。

医療法人社団 敬寿会

夢の樹の郷

〒411-0902 駿東郡清水町玉川183-1
TEL.055-971-1000
FAX.055-971-1003
E-mail:yumenoki@za.tnc.ne.jp

- 平成15年4月開設
- 入所定員100名
- 通所定員60名



当施設は、伊東市が開設者となり公益社団法人地域医療振興協会が指定管理者の指定を受け開設しました。

施設理念「利用者の皆様の個性を尊重し、安全に配慮しつつ生活機能の維持・向上を支援し、在宅での自立を支援します」のとおり常に安心に心がけ、ご利用される皆様が生き生きとした在宅生活を送れるように支援してまいります。

伊東市公益社団法人 地域医療振興協会

みはらし

〒414-0055 ●平成18年4月開設
伊東市岡187 ●入所定員125名
TEL.0557-37-3804 ●通所定員30名
FAX.0557-37-6678
E-mail:itoroken3804@soleil.ocn.ne.jp



いかる野は、富士山の麓白糸の滝上に位置しており今春で九年目を迎えます。

老健の理念である利用様の意思を尊重し望ましい施設生活が過ごせるような必要な看護、介護、リハビリ等による生活機能の維持向上を図り包括的ケアを行っていき安全で安心して過ごしていただけるようスタッフ一同努めてまいります。

今後ともよりしくお願い致します。

医療法人社団 富士恵仁会

いかる野

〒418-0105 ●平成18年4月開設
富士宮市原709 ●入所定員100名
TEL.0544-54-3200 ●通所定員40名
FAX.0544-54-3201
E-mail:ikaruno.ogenki@estate.ocn.ne.jp



若菜の会(安東市体育会)によるドジョウすくい

当施設は伊東駅から徒歩三分、目の前には伊豆の海が広がり裏山には自然の木々に囲まれた、場所にあります。

伊東は温泉も有名で、通所リハビリでは温泉浴も楽しんで頂いております。また、祭りやイベントも多く、地域の方々にもご協力頂き、ご利用者の方々にも楽しんで頂いております。これからも地域に根ざした施設を目指し、努力して参ります。

医療法人 啓仁会

いとうの杜

〒414-0002 ●平成18年11月開設
伊東市湯川288-9 ●入所定員137名
TEL.0557-35-4165 ●通所定員60名
FAX.0557-35-4101
E-mail:t.yoshida@tl-wam.or.jp



高齢化のスピードが速いと言われる伊豆半島において、我々は組織力で頑張っています。

協力病院に伊豆東部総合病院、ふれあい南伊豆ホスピタル、関連サービスにふれあい上野山訪問看護ステーション、地域生活支援センターふれあいを擁し、在宅支援に軸足を置きながら状況に応じた即座な対応と質の高いサービスにより地域の皆様に喜ばれています。

医療法人社団 辰五会

ふれあいの下田

〒415-0013 ●平成18年4月開設
下田市柿崎32-10 ●入所定員100名
TEL.0558-27-0700 ●通所定員30名
FAX.0558-27-1117
E-mail:fureshimo@fureai-g.or.jp



お寿司バイキング、干物バイキング、焼き牛バイキング、クレープバイキング・・・
楽しい食事を心掛けています。

当施設の地元富士市の市花はバラ。富士市オリジナル品種のバラ「かぐや富士」を施設の名前とさせて頂きました。富士市に根ざした施設であるとともに、地域の皆様に愛される施設でありたいという思いが込められています。世界遺産となった富士山を間近に望む環境のもと、ご利用者様の栄えある自立支援の為に、心と心の通い合った豊かな生活サポートをご提供いたします。

医療法人社団 静寿会

かぐや富士

〒417-0826 ●平成20年10月開設
富士市中里2546-7 ●入所定員90名
TEL.0545-32-2150 ●通所定員50名
FAX.0545-31-1433
E-mail:kaguyafuji777@gmail.com



サンビューみしまは、平成二十六年四月一日より、併設の三島社会保険病院とともに法人が「独立行政法人地域医療機能推進機構・JCHO(ジェイコー)へ生まれ変わり、「三島総合病院附属介護老人保健施設」となります。施設名は変わりますが、これからも職員一丸となって努力し、地域から愛され、地域包括ケアの要となる施設を目指してまいります。

社団法人 全国社会保険協会連合会

サンビューみしま

〒411-0801 ●平成13年5月開設
三島市谷田字藤久保2276 ●入所定員100名
TEL.055-983-6050 ●通所定員40名
FAX.055-983-6070
E-mail:sun-view0501@adagio.ocn.ne.jp



当施設は富士市街と駿河湾を一望でき、北側には霊峰富士が聳え立つ場所に位置しております。入所定員は一〇四床で「等身大のいのちと誇り」をモットーに、比較的小規模な看護度な医療ニーズの必要な入所者に対し、木目細やかな質の高いサービスを提供しています。また、入所者の方々に安心して自分らしい日常生活を送れる様に支援してまいります。

医療法人社団 喜生会

新富士ケアセンター

〒417-0801 ●平成22年8月開設
富士市大淵3898-1 ●入所定員104名
TEL.0545-36-2212
FAX.0545-36-2343
E-mail:shinfuji-ijika@ab.thn.ne.jp



介護療養型老人保健施設として開設し、今年で六年目を迎えます。平成二十四年度から強化型の指定を受け、通常の老人保健施設と比較して医療依存度の高い方を受け入れる役割を果たしています。「高齢者を敬うその人間性を重んじる」という法人の基本方針を礎に、一人ひとりに寄り添った支援を心掛けています。愛鷹クリニックス、片浜在宅支援センター併設。

医療法人社団 愛康会

あしたかケアセンター

〒410-0875 ●平成20年9月開設
沼津市今沢372-5 ●入所定員75名
TEL.055-967-3711代 ●通所定員40名
FAX.055-967-3727
E-mail:aikoukai-carecenter@yahoo.co.jp



ケアセンター瀬名は、静岡瀬名病院の併設施設として竜爪山を望み閑静で緑豊かな環境の中で開設し、今年で二十六周年を迎えます。入所定員二〇〇名、通所定員七〇名です。平成二十四年よりサービスを開始した短時間（二時間～三時間）の通所リハビリでは、特に個別リハビリを希望される利用者様には大変喜んで頂いております。これから地域に愛される施設を目指していきます。

医療法人社団 恒仁会

ケアセンター瀬名

〒420-0903 平成元年6月開設
静岡市葵区長尾39-5 入所定員200名
TEL.054-264-2221 通所定員70名
FAX.054-264-8100



当施設は、雄大な富士山が見え、屋上からは、富士市内が一望できる風光明媚な場所に位置しています。『出会い、笑顔、あなたらしさ』をモットーとし、全てのご利用者様に満足して頂けるよう、サービスを提供しています。全職員が、介護に携わる「介護従事者」として、真摯にひたむきに向き合うことを「私たちの約束」としています。

社会福祉法人 秀生会

富士中央ケアセンター

〒419-0201 平成25年3月開設
富士市厚原372-1 入所定員100名
TEL.0545-72-3800 通所定員30名
FAX.0545-72-3803
E-mail:fujic3@lily.ocn.ne.jp



眼下に清水港、遠くに富士を望み、住み慣れた清水の町を感じる事ができる施設です。自宅への復帰を目指し、明るい雰囲気の中で、住み慣れた自宅へ復帰できるよう支援していきます。おいしいと評判の食事、リハビリ専門スタッフによる機能訓練、日常生活の中で取り組むリハビリ等豊かな生活を送りながら、病院と在宅の中間施設としての役割を果たしています。

医療法人 清秀会

ケアセンター ひまわり

〒424-0934 平成5年9月開設
静岡市清水区村松原1-2-34 入所定員100名
TEL.054-336-3033 通所定員20名
FAX.054-336-3035
E-mail:info@seishukai-h.com



当施設は開設二十三年目を迎えております。日本平の麓にあり季節ごとに様々な花が咲き自然豊かで落ち着いた環境にあります。認知症や寝たきりの方が増えていますが一人ひとりの状態や希望に合わせて個別リハビリに力を入れております。誕生会や季節の行事では外出やおやつ作り、皆さんが参加できるような歌の機会を多く作り、日々の楽しみを提供していきたいと思っております。

医療法人社団 清仁会

あかつきの園

〒424-0917 平成3年9月開設
静岡市清水区駒越2883-1 入所定員100名
TEL.054-334-5533 通所定員10名
FAX.054-334-1121
E-mail:akatukinosono@yahoo.co.jp



高草山の麓、南には高草川が流れ、梅や桜などの花木に囲まれた環境に位置する施設です。毎月の行事やレクリエーションも四季折々の季節を感じながら楽しく時間を過ごすことができます。施設内の畑では、利用者の皆さんと職員が、無農薬・有機肥料で野菜を栽培しております。利用者さんの食事に提供されます。

医療法人社団 駿甲会

コミュニティケア 高草

〒425-0005 平成8年4月開設
焼津市方ノ上358-1 入所定員84名
TEL.054-627-5588 通所定員115名
FAX.054-627-9988
E-mail:care_takakusa@za.tnc.ne.jp



焼津では、一番歴史のある老健です。通所リハビリは六十三名定員で、県内ではめずらしいプールリハビリも行っております。今年は、物作りに力を入れていこうという事で、陶芸教室を開き、利用者各々作られた、お皿や湯呑み等大変喜ばれました。入所の方やも負けじと、色々な事にチャレンジしてまいります。職員同士も仲のよい明るく活気ある老健です。

医療法人社団 縁和会

焼津ケアセンター

〒425-0062 平成7年3月開設
焼津市中根新田1315 入所定員150名
TEL.054-623-8111 通所定員63名
FAX.054-623-8116
E-mail:k.sugawara@suruga-nishi.com



当施設では、ご利用お一人おひとりを尊重し「その人らしい生活」が送れるように質の高いケアを心がけております。楽寿の園高齢者総合福祉エリアの各施設や居宅事業、行政・医療機関等との密接な連携により、ご利用者の状態や要望に沿った介護を提供しております。穏やかな時の流れと温かく家庭的な雰囲気の中で、心豊かに過ごしていただけるよう努力しております。

社会福祉法人 楽寿会

楽 寿

〒421-2115 平成8年10月開設
静岡市葵区与左衛門新田98-11 入所定員100名
TEL.054-296-1112 通所定員40名
FAX.054-296-1313
E-mail:rokenrakuju1313@aiores.ocn.ne.jp



当施設は、開設十九年目を迎え、「人々にやさしい、地域密着型施設」として、入所、短期入所、通所リハビリテーションのサービスを中心に本体である松生整形外科医院と共に、ご利用者様お一人おひとりのご希望やニーズに合わせた、質の高いサービスの提供を目指し、努力してまいります。お問い合わせや施設見学のお申し込み、ご質問など、お気軽にお電話下さい。

医療法人社団 宏整会

サンライズ 大浜

〒422-8045 平成8年5月開設
静岡市駿河区西島528 入所定員121名
TEL.054-282-2839 通所定員20名
FAX.054-281-8245



当施設は焼津市の南部に位置し、併設居宅サービスとして、通所リハビリテーション、短期入所療養介護、訪問介護事業所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を運営しております。

入所定員は一般棟五十名、認知専門棟四十七名であります。利用者様の残存機能を維持し、在宅での生活が出来るよう、施設全体で応援体制を整えております。

医療法人社団 正心会

ケアセンター ゆうゆう

〒425-0052 平成9年4月開設
焼津市田尻4 入所定員97名
TEL.054-625-0321 通所定員100名
FAX.054-625-0322
E-mail:yuuyu@sa2.gyao.ne.jp



私達はその人らしい生活が送れるよう、

- ① Smiley (常に笑顔で)
- ② Safety (安全を守り)
- ③ Speedy (素早い対応で)
- ④ Satisfy (満足が得られるよう)

の4Sの精神を理念にしています。温かなふれあいと心やすまる安心を。ご利用者に充実した老後を過ごしていただけるよう、職員一同日々努力しております。

医療法人社団 博慈会

こみ

〒420-0963 平成9年4月開設
静岡市葵区赤松8-16 入所定員186名
TEL.054-209-7000 通所定員75名
FAX.054-209-7007
E-mail:info@communi.or.jp



当施設は、藤枝市の北部郊外に位置し、瀬戸川の清流と周囲を山々に囲まれた緑豊かな自然に恵まれた中にあります。

隣接する聖後リハビリテーション病院との連携を持ち、リハビリスタッフによる個別・日常的なリハビリテーションを行い、多職種共同で在宅復帰を目指し、在宅生活の継続が出来る様に支援を行っております。

医療法人社団 聖後会

グリーンヒルズ藤枝

〒426-0133 平成10年4月開設
藤枝市宮原420-1 入所定員100名
TEL.0547-639-1234 通所定員75名
FAX.054-639-1255
E-mail:rouken@mail.wbs.ne.jp



当施設は医療依存度が高く、重度認知症の虚弱高齢者の方々にもADLリハビリを中心とした施設ケアを多職種協働で提供しています。長期入所では「最期まで経口摂取」を叶える終末期緩和ケアを、デイケアでは通常のリハビリ以外に心肺機能低下者への呼吸リハビリや、集団言語体操「リズムカル体操」などの「話し言葉」の再獲得を目標とした言語リハビリを実施しています。

医療法人社団 平成会

カリタスメンテ

〒426-8662 平成9年5月開設
藤枝市水上123-1 入所定員50名
TEL.054-643-1266 通所定員20名
FAX.054-643-1289
E-mail:heisei.caritas@ny.tokai.or.jp



アポロン中溝は十六年目を迎えます。短期入所・通所リハビリ・訪問介護・居宅介護支援を併設しています。

アポロン伊太は四年目です。小規模老健、デイサービス・グループホーム・複合型サービス・訪問看護を併設している全国でも珍しい複合施設です。認知症があってもなじみの地域で安心して生活できる、地域に愛される施設を目指しています。

医療法人社団 健社会

アポロン

〒427-0047 平成11年4月開設
島田市中溝町1714-1 入所定員80名
TEL.0547-34-2000 通所定員37名
FAX.0547-34-2358
E-mail:apolon@kenshikai.or.jp



当施設は、JR金谷駅より北へ2km、西に緑映える山々、東には大井川を望める豊かな環境にあります。御利用者は広く開放感ある館内です。ゆったりと過ごされたり、四季折々の行事では楽しみながら機能回復に取り組んでおられます。充実したリハビリ体制の下、訪問リハの促進など、変貌する地域の要望・期待に沿った質の高いサービスの提供を目指してまいります。

医療法人社団 共生会

エコトーフ

〒428-0007 平成10年10月開設
島田市島534-1 入所定員150名
TEL.0547-45-0111 通所定員40名
FAX.0547-45-0112
E-mail:ecotope@ke.tnc.ne.jp



今年で十五年目を迎える当施設は、平成二十四年の介護報酬改定以降、利用者様が笑顔に満ち溢れた快適な在宅生活を送れるように、様々な取り組みをしてきました。ロボットスーツHALを使用した歩行訓練や認知症利用者への独自のサービスの充実など多岐に渡る内容です。今後も在宅生活に目を向け、皆様に愛される施設を目指します。

医療法人社団 秀慈会

萩の里

〒422-8018 平成12年3月開設
静岡市駿河区西大谷12-5 入所定員100名
TEL.054-236-1155 通所定員85名
FAX.054-236-1177
E-mail:haginosato-1@mail.wbs.ne.jp



基本理念にうたう「高齢者の人間性を尊重し、高齢者が健やかで尊厳ある人生を送ることが出来るよう支援する」の実現を目指し、職員一同「優しい言葉」「思いやりのある態度」を大切にする心を心がけ、ご利用者やそのご家族に接しています。

日独文化交流育英会から寄贈されたドイツ菩提樹が建物を囲む緑豊かな環境の中、温かみのある施設づくりに努めています。

医療法人社団 博恵会

アリス草薙

〒424-0886 平成11年11月開設
静岡市清水区草薙424-7 入所定員100名
TEL.054-347-6511 通所定員80名
FAX.054-347-6565
E-mail:arisuk@stlas.plala.or.jp



興津の高台に位置し、清水の町並みや駿河湾を一望できる明るく、広々とした施設です。広大なリハビリ公園では、季節の草花や農作物を育てており、収穫を楽しむことが出来る施設となっております。

サビス内容は、一般入所六十床、認知症四十床（短期入所含む）、通所リハビリテーション定員五十五名、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所になります。

芙蓉の丘は、利用者が明るく楽しく生活できるように、身体・精神面を職員一同でサポートしております。

専属の理学・作業・言語療法士の指導によるリハビリの他、芙蓉の丘オリジナルのさくらえび体操や健康体操の筋力トレーニングを毎日行います。クラブ活動にも参加していただき、計算ドリルや漢字ドリル等意欲的に能力トレーニングも行っています。

一人ひとりの利用者にとって「居心地のいい」施設となるよう、のんびりと穏やかに過ごせることを大切にしています。

また、季節ごとの行事はもちろん、音楽療法や料理教室等々の多種多様な活動を企画・実施し、利用者と家族、職員や地域の方々が一緒にあって、和気あいあいと楽しく過ごしています。

どうぞ、お気軽に立ち寄って下さい。

当施設では「信頼・安心でできる思いやりのある医療・福祉環境づくり」を理念に掲げ、手厚く細やかな介護・充実したりハビリティ・セッションを目標としています。リハビリについては、利用者様の心身機能の維持回復はもちろぬのこと、一人ひとりに適したプログラムを組むなど個別重視の訓練を提供しています。その他、地域ボランティアの皆様のご協力のもと、季節に合った様々な行事を盛大に行っています。

交通至便な街中にありながらも、喧騒を忘れ穏やかに癒される都市型老健施設です。ご利用者やご家族も安心・便利にご利用いただけ、ゆったりと過ごしていただける設備はもちろん、一人ひとりの生活状況に沿ったリハビリとケアの提供を心掛けていきます。

「やさしさで支えたい、守りたい」をテーマに笑顔あふれる施設を目指しています。

医療法人社団 宝徳会

ケアセンター 池田の街

〒422-8005 〇平成17年4月開設
静岡市駿河区池田185-1 〇入所定員110名
TEL.054-267-2211 〇通所定員40名
FAX.054-267-2700
E-mail:ikedanomachi@houtoku-kai.or.jp



介護老人保健施設かりんは、静岡市駿河区宇津ノ谷峠の山々に囲まれた緑豊かな環境の中にあり、リハビリを中心としたサービスを提供しております。

当施設では、人の心の豊かさ、優しさ、利用者の皆さまの立場に立って考える想像力、きめ細かな思いやりを最も大切な理念と考え、日々看・介護を行っています。

医療法人社団 聖雄会

かりん

〒421-0105 〇平成17年4月開設
静岡市駿河区宇津ノ谷1-1 〇入所定員100名
TEL.054-268-6666 〇通所定員40名
FAX.054-268-6660
E-mail:karin-h@za.tnc.ne.jp

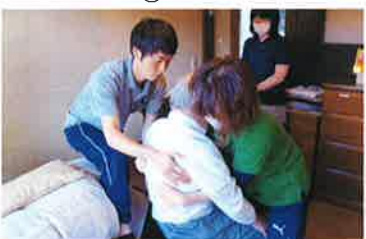


短期入所サービスでは医療的ケアが必要な人を積極的に受け入れ在宅療養を支えています。支援相談員が主治医・訪問看護・ケアマネ・通所サービスから直近の情報収集をしたり、家人にベッドやテレビの配置を伺う等、自宅と同様に過ごして頂けるように心がけています。送迎もリハビリ職が同行して生活動作を把握し、介助方法等への助言も行ない不安の軽減に努めています。

医療法人 志太会

ユニケア岡部

〒421-1131 〇平成15年9月開設
藤枝市岡部町内谷1473-3 〇入所定員100名
TEL.054-667-5555 〇通所定員50名
FAX.054-667-3623
E-mail:konuma@e-miwasan.com



清水区庵原町の高台に位置しており、静岡から清水の街並や駿河湾を一望できる施設となっております。「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念に持ち、その人らしい生活習慣やこだわりを大切に、お一人おひとりの状態や目標に合わせたケアを行っています。二十代三十代の若い職員も多く、一人ひとりの「らしさ」を大切にしています。

医療法人財団 百葉の会

鶴舞乃城

〒424-0114 〇平成19年4月開設
静岡市清水区庵原町3158 〇入所定員100名
TEL.054-361-1234 〇通所定員70名
FAX.054-361-0800
E-mail:tsurumai-jinji@sweet.ocn.ne.jp



（私たちが実践しているケア）

- ・各フロアごとの厨房で、施設全体の一括調理をなくし一人ひとりにあった食事ケア
- ・機械浴が全くなく、プロの介護技術で、重度の方も普通のお風呂に入る入浴ケア
- ・安易なオムツ使用をせず、重度の方もいていねいにトイレへお連れする排泄ケア
- ・一切の身体拘束をしていない
- ・人として穏やかに支えるターミナルケア

医療法人財団 百葉の会

星のしずく

〒420-0805 〇平成24年5月開設
静岡市葵区城北87 〇入所定員100名
TEL.054-200-5555 〇通所定員40名
FAX.054-200-5558
E-mail:star-drop@eagle.ocn.ne.jp



当施設は、献身的な心・ホスピタリティの精神を大切にし、同じ目線・同じ心で感じることのできる感性を磨き、ユニットケア・個別ケアを基本とし、ご利用者様の生活のリズムに合わせ、寄り添う介護、良き聞き手・癒し手となります。

リハビリにも力を入れており、チーム一丸となってADL・QOLの向上に努め、在宅復帰を支援しております。

医療法人社団 アール・アンド・オー

エスコートタウン静岡

〒420-0821 〇平成19年9月開設
静岡市葵区柚木90-1 〇入所定員120名
TEL.054-267-1010 〇通所定員50名
FAX.054-267-1060
E-mail:info@escort-town.com



静岡県初の老人保健施設として、平成元年に開設しました。入所者が充実した生活を送っていただけるよう、レクリエーション専門スタッフをはじめ職員が多様な趣味活動や関わりを大切にしております。通所リハビリテーションでは、リハビリに特化した半日制で、個別リハビリメニューを主に、サービスを提供しております。利用者にとって心地よい生活の場を考えています。

医療法人社団 一穂会

西山ウエルケア

〒432-8001 〇平成元年4月開設
浜松市西区西山町411-2 〇入所定員148名
TEL.053-485-5500 〇通所定員
FAX.053-485-6130 午前30名 午後30名
E-mail:wellcare@nishiyama.or.jp



当施設は静岡駅からのアクセスが良く、近隣に安倍川ゆかりの薩摩土手を臨み、緑豊かな景観が楽しめる場所にあります。また近隣には小学校があり、児童の明るい声がご利用者様の笑顔の源にもなっております。

入所定員一〇〇名で展開し、環境にも恵まれ、常に明るい笑顔の絶えない施設をモットーに温もりのある介護に努めてまいります。

医療法人 杏林会

リハビリパーク駿府

〒420-0873 〇平成24年11月開設
静岡市葵区籠上8-6 〇入所定員100名
TEL.054-266-3611 〇通所定員30名
FAX.054-266-3613
E-mail:sunpu@rehabili-park.com



浜名湖を望み、山々に囲まれた温暖な気候に恵まれた三ヶ日の自然の環境の中、安心して暮らせる療養環境を、私たち職員一同、真心込めてご提供させていただきます。

当施設のコットーは利用者様に快適で気持ちよく暮らすことのできる環境の提供であり、その為に「明るく、清潔に」を合言葉とし、日々サービスの提供をさせて頂いております。地域福祉ニーズに幅広く対応できる施設であるよう、常に努力していきます。今後も福祉の拠点になるよう頑張っていきます。

医療法人社団 早友会

みっかび東介護老人保健施設

〒431-1404 平成4年4月開設
浜松市北区三ヶ日町字志34-1 入所定員100名
TEL.053-524-2000 通所定員30名
FAX.053-524-1152



法人理念の「隣人愛」に則り、地域社会の中で、在宅復帰・在宅生活支援施設としての役割を担っていくことを目指しています。利用者の「生きよう」という意欲を育み、個人として尊重され、持てる能力を活かした自立生活を営めるよう支援いたします。聖隷三方原病院併設であり、医療支援体制や専門性の高いリハビリテーションなどを提供することが可能です。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団

三方原ベテルホーム

〒431-1304 平成3年4月開設
浜松市北区細江町中川7421-1 入所定員150名
TEL.053-436-6600 通所定員50名
FAX.053-439-0055
E-mail:beteru-mk@sis.seirei.or.jp



介護老人保健施設なかよしは、豊田えいせい病院が併設されており病状や状態の変化などに迅速な対応が可能です。

当施設では季節の行事の他にも、おやつや寿司バイキングを定期的に行なっております。敬老会での迫力満点の本格的な時代劇は利用者様にとても好評でした。

今後とも利用者様の笑顔や気持ちを大切に職員一同努力していきます。

医療法人社団 恵成会

なかよし

〒438-0838 平成6年3月開設
磐田市小立野135-1 入所定員50名
TEL.0538-34-6543 通所定員40名
FAX.0538-37-7498



当施設はまだ多くの緑が残る浜松市北区都田町にあります。平成五年三月に開設、現在は、入所定員四〇五名、通所定員二〇名の施設です。より充実したリハビリテーションが提供できる様、パワーリハビリ機器を使用したりハビリテを行っております。利用者様やそのご家族の満足度を高める為に、スタッフ一同、サービスの質の向上に努めていきたいと思っております。

医療法人社団 長啓会

都ケアセンター

〒431-2102 平成5年3月開設
浜松市北区都田町7555-47 入所定員405名
TEL.053-428-3331 通所定員20名
FAX.053-428-3332



ハイマートはドイツ語で「ふるさと」という意味があり当施設では居心地の良い生活・家庭的な温もりを提供できる環境づくりを目指しています。通所入所施設ともに音楽体操・レクリエーション・リハビリを通じて心身機能の向上にも努めています。その他納涼祭や慰問による歌や踊りを楽しむことができ年間行事も充実しています。詳しい内容はホームページで御覧下さい。

医療法人社団 岡崎会

ハイマート有玉

〒431-3122 平成7年4月開設
浜松市東区有玉南町1436 入所定員100名
TEL.053-434-7877 通所定員60名
FAX.053-435-4987



当施設は、浜松市の北部にあり、国道一五二号線沿いで、浜松市中心街より車で約三十分たらずの交通至便な場所にありながら緑に囲まれた田園の中に位置します。

建物の前方には広々とした回廊式の車椅子通路に囲まれた庭園、ふれあい動物園、ミニ果樹園があり、利用者のレクリエーション活動や憩いの場として利用されております。

また、当施設より徒歩一〇二分のところには協賛病院があり、当利用者様の力強い支援をしております。

医療法人社団 明徳会

エーデルワイス

〒434-0041 平成6年9月開設
浜松市浜北区平口2405 入所定員150名
TEL.053-585-1500 通所定員60名
FAX.053-585-1501



当施設は佐鳴湖の南側に面した雄踏バイパス沿いに位置し浜松市中心街から車で約一〇分程の交通便利性のよい介護老人保健施設です。リハビリを中心に利用者様のニーズに応じてサービスを提供しております。

地域に根付いたサービスを住民の方々に提供できるように、スタッフ一同が「親切、丁寧、平等」を心掛け、日々の業務にあたっております。

医療法人社団 和恵会

入野ケアセンター

〒432-8061 平成7年10月開設
浜松市西区入野町6417 入所定員150名
TEL.053-440-1200 通所定員80名
FAX.053-440-1201
E-mail:irino-cc@kotou-wakeikai.com



当施設は開設十九年目を迎えます。老健の役割として利用者様の状況に応じた個別ケアに重点を置き、短期集中リハビリや認知症短期集中リハビリ等を提供しています。入所後三ヶ月は生活自体落ち着かない時期であり、その限られた時間の中で重要な役割となるアプローチを行うよう個別ケアの充実に努めております。

医療法人社団 白梅会

白梅ケアホーム

〒431-1112 平成7年4月開設
浜松市西区大人見町3011-1 入所定員150名
TEL.053-485-7711 通所定員40名
FAX.053-485-7712
E-mail:info@shiraume.or.jp



敬老会では一人ひとりの利用者様が満足いただけるよう、喜ぶお顔を想像しながら、職員がプレゼントを買っています。当日施設長が一つ一つ真心をこめて手渡し、楽しく嬉しい時をお過ごしいただけるよう、全職員が会を盛り上げます。これからの「個」のニーズに丁寧に応え、質の高いケア・心のこもったサービスが提供できるよう、日々努力を重ねていきたいと思います。

医療法人社団 川口会

エバークリーン掛川

〒436-0043 掛川市大池680
TEL.0537-21-0550
FAX.0537-21-0551
E-mail:ever-g.k@athena.ocn.ne.jp

- 平成8年5月開設
- 入所定員100名
- 通所定員40名



当施設は、磐田市南部に位置しています。福田西病院という精神科神経科の病院に併設され、医療との連携を密にした支援体制をとっています。開設よりもうすぐ二十年が経とうとし、建物は古くなってきましたが、職員の心はきれいな状態で皆協力し合い、良いサービスが提供できるよう努めています。

医療法人社団 木野記念会

於保老健センター

〒437-1216 磐田市一色26
TEL.0538-58-2550
FAX.0538-58-2552
E-mail:oho-roken@extra.ocn.ne.jp

- 平成8年4月開設
- 入所定員80名
- 通所定員20名



おおふじ五幸ホームは、茶畑に囲まれた高台にあり静かな場所に立地しております。しかし、一步施設内に足を踏み入れますと、明るい職員の声があふれ、利用者様の笑顔が絶えません。職員は、職種間を超えて協力しあい、チームとして利用者様を支えていく事を目指しております。「今日も有り難う。」の声に力を頂き、職員一同今後も日々精進していききたいと考えております。

医療法人社団 藤友五幸会

おおふじ五幸ホーム

〒438-0002 磐田市大久保508-3
TEL.0538-38-5511
FAX.0538-38-5656
E-mail:gokohome@anber.plala.or.jp

- 平成10年4月開設
- 入所定員100名
- 通所定員60名



多くの自然に囲まれた北遠地域に当施設は位置しています。ご利用者一人ひとりの体調や状態、生活環境に合わせりハビリテーションを行うことにより、一人でも多くのご利用者の在宅への生活復帰を目指しています。今後も、ご利用して下さる皆様に、ご安心して頂けるサービス提供に努めてまいりますので、よろしくお願い致します。

社会福祉法人 天竜厚生会

さいわい

〒431-3492 浜松市天竜区渡ヶ島221
TEL.0538-583-1156
FAX.053-583-1258
E-mail:roken-saiwai@tenryu.kohseikai.or.jp

- 平成9年6月開設
- 入所定員127名
- 通所定員55名



当施設は、季節感を大切にした各種行事、レクリエーション、散歩、食事、音楽療法等に力を入れており、利用者様の表情も明るく豊かになっています。リハビリテーションにおいてもパワーリハビリを導入し、機能回復や維持に努めています。今後も全職員一丸となって、明るく活気があり安心して利用して頂ける施設を目指し努力していききたいと思います。

医療法人社団 学修会

神子の園

〒436-0084 掛川市逆川100
TEL.0537-20-0080
FAX.0537-20-0081
E-mail:mikosono@topaz.ocn.ne.jp

- 平成11年4月開設
- 入所定員100名
- 通所定員60名



当施設はJR磐田駅より南へ徒歩一〇分に位置し、ホールの半円形の窓からはのどかな田園風景、遠くには富士山が望めます。入所者様一人ひとりに合った看護、介護、リハビリを提供しています。また季節の行事や、地元の方々とのふれあい等いろいろな活動を企画しています。今後も職員一丸となり、感謝の気持ちを持って奉仕していききたいと思います。

医療法人社団 愛慈会

さくらの苑

〒438-0074 磐田市二之宮字仙水1162
TEL.0538-33-3800
FAX.0538-33-3802
E-mail:sakura-s@athena.ocn.ne.jp

- 平成10年5月開設
- 入所定員100名
- 通所定員39名



静岡県最西端に位置する当施設は、浜名湖や湖西連峰など自然にも恵まれた地域にあります。自宅での生活へ戻る事、継続する事を目標としたリハビリに力を入れています。また、同一法人浜名病院との密な連携により、質の高い医療・介護を提供しています。地域に愛され、必要とされる施設を目指して、質の向上を図ってまいります。

医療法人社団 浜名会

まんさくの里

〒431-0422 湖西市岡崎1353-1
TEL.053-572-3911
FAX.053-572-3939

- 平成13年4月開設
- 入所定員100名
- 通所定員40名



袋井ケアセンターは、袋井市北部・天竜浜名湖線遠江一宮駅に近い萱間の山腹に位置する所にあります。季節の節目ごとにボランティアの方々による演奏や、地元萱間自治会による秋祭り、神輿が施設内で練りをしてくれます。これからも、利用者様の笑顔が見えるように、日々能力向上に努めます。地域やご家族様との交流を大切に生活支援を職員一丸となって取組みます。

医療法人社団 清怜会

袋井ケアセンター

〒437-0003 袋井市萱間933-1
TEL.0538-49-4911
FAX.0538-49-4912
E-mail:care-fukuroi@future.ocn.ne.jp

- 平成11年7月開設
- 入所定員100名
- 通所定員40名



花平ケアセンターは、浜松市北区引佐町に位置し緑に囲まれた施設です。今年の四月で開設十三年目を迎えます。当施設では毎年十月に秋祭りが盛大に催され当日は職員全員が法人のテーマとする「絆」の文字が入ったTシャツを着て盛り上げています。職員間と利用者様、地域の皆様との絆を大切にし心温かなケアを心掛け「おもてなし」の気持ちをこめてサービス提供を努めています。

医療法人社団 藤花会 花平ケアセンター

〒431-2211 ●平成14年4月開設
浜松市北区引佐町花平708 ●入所定員100名
TEL.053-542-4187 ●通所定員40名
FAX.053-542-4087
E-mail:hanadaira-cc@earth.ocn.ne.jp



平成23年度花会開催時

御前崎市の小高い丘に建ち、南は遠州灘、北には遠く富士山を望む風光明媚な環境に恵まれた、御前崎市が開設する施設です。併設されている、市立御前崎総合病院、訪問看護ステーションと協力し、地域に根ざした、医療、看護、介護、リハビリ、地域による総合福祉のトータルケア・コミュニケーションとして、全ての利用者一人ひとりに心豊かな生活のご提供を目指しています。

御前崎市 はまおか

〒437-1688 ●平成13年5月開設
御前崎市池新田2070 ●入所定員50名
TEL.0537-86-8822 ●通所定員45名
FAX.0537-85-7436
E-mail:roken.hamaoka@matv.ne.jp



浜松市の三方原町にある当施設は、新東名と東名高速の間に位置し、最近住宅や施設の開発が進みつつあります。小学校が隣接している文教地区で、閑静な療養環境です。入所者は重度な方が増え、看取りの対応が必要なる方も増えていきます。一方、利用者、御家族のリハビリへの希望も強くなり、人員を増やして対応しています。介護、看護などの人員不足や東海地震への対応などの課題は多いですが、職員一致団結して努力していきたいと思っています。

医療法人社団 東医会 みかたはら介護老人保健施設

〒433-8105 ●平成15年4月開設
浜松市北区三方原町675-6 ●入所定員100名
TEL.053-438-5886 ●通所定員40名
FAX.053-438-5887



当施設は浜松市南部馬込川沿いに位置し居宅介護・地域包括を併設した施設です。平成十六年三月には、浜松市より都市景観賞をいただきました。屋上から見渡せる風景は少しずつ変わっていくありますが、基本理念「親切」「丁寧」「平等」は決して変わることなく、職員一同日々念頭に利用者様へ心を込めたサービスを提供し続けていきたいと思っています。

医療法人社団 和恵会 白脇ケアセンター

〒430-0846 ●平成14年4月開設
浜松市南区白羽町1424 ●入所定員100名
TEL.053-444-3131 ●通所定員60名
FAX.053-444-3132
E-mail:s-katou@kotou-wakeikai.com



天王介護老人保健施設は、平成十五年八月に開設しました。天王病院（認知症専門病院）開設当初から「心と心のふれあい」、「親切と信頼の医療」を礎に今日まで信頼と実績を生かしてまいりました。各病室には障子の窓を配置し、和の雰囲気漂わせ、全室個室化により入居された皆さん個人の主体性を尊重する事ができる環境を提供しています。

医療法人社団 緑生会 天王介護老人保健施設

〒435-0051 ●平成15年8月開設
浜松市東区市野町2495 ●入所定員100名
TEL.053-423-1070 ●通所定員40名
FAX.053-423-1072
E-mail:tennou-rouken@tennou-hospital.or.jp



当施設は、浜松の南東部に開設し、昨年十周年を迎えることができました。入所部門では、八十二名のユニットにおいて、家庭の雰囲気大切に、温かくきめ細かい介護を目指しています。リハビリ専門プールを備えた通所リハビリでは、生活目標に合わせた日常動作訓練に加え、パワリハによる体力維持にも努めています。

医療法人社団 山川会 ケアセンター 芳川

〒430-0838 ●平成15年10月開設
浜松市南区浜野町24 ●入所定員100名
TEL.053-426-0003 ●通所定員60名
FAX.053-426-0004
E-mail:info@yamakawakai.net



風の杜がある森町は、四方を緑に囲まれた自然豊かなところなのです。その森町で風の杜は開設して八年が経ちました。作業療法士によるリハビリに加え、エアロビ、農業スポーツレクリエーションなども行っています。農業では、「風の杜農園」で季節の野菜を栽培しています。収穫や調理の際にはご利用者様も参加して頂き、おいしく召し上がっていただいています。

医療法人社団 緑風会 風の杜

〒437-0214 ●平成17年4月開設
周智郡森町草ヶ谷104-1 ●入所定員80名
TEL.0538-85-1121 ●通所定員43名
FAX.0538-85-1171
E-mail:jimukyoku2@ryokufu.jp



当施設は掛川市の南部・旧大須賀町にあり、今春開設十年が経ちました。安全で快適な高齢者にやさしいオール電化の施設です。また、天井も高く太陽の光が降り注ぎ施設内がとても明るいのが特徴です。理念である「老いも若きも みな共々の支え合いの縁の絆」（あおばの歌より）を胸に、ご利用者の心に寄り添うケアを目指しています。

医療法人社団 あおば会 あおばケアガーデン

〒437-1302 ●平成16年4月開設
掛川市大淵4345 ●入所定員100名
TEL.0537-48-0002 ●通所定員60名
FAX.0537-48-0024
E-mail:aobakai.garden@soleil.ocn.ne.jp



当施設は磐田市北部の浜北大橋の袂に位置し、開設から今年で九年目を迎えます。療養型病院である白梅豊岡病院を併設している為、医療の迅速な対応が可能です。また入所者様の余暇活動の充実を図るために様々なレクリエーションを行っています。利用者様の笑顔に職員も元気を頂いています。これからの皆様との素敵な笑顔が沢山見られますように日々努めてまいります。

医療法人社団 白梅会

白梅豊岡ケアホーム

〒438-0126 平成18年4月開設
磐田市下神増183-1 入所定員100名
TEL.0539-62-1601 通所定員8名
FAX.0539-62-1606



当施設は多大なご支援ご協力を賜りまして、開設九年目を迎えることが出来ました。在宅復帰を目標に個々のレベルに合わせた理学療法、作業療法、クラブ活動、音楽療法と様々なプログラムを取り入れ日々工夫したサービスを提供しております。今後も基本理念の遵守と、施設の開放、地域との融合を意識した施設づくりを目指し努力を重ねていきたいと考えております。

医療法人社団 晴和会

さわだの庄

〒439-0037 平成17年4月開設
菊川市西方5511 入所定員100名
TEL.0537-35-8889 通所定員70名
FAX.0537-35-8880
E-mail:seiwakai@ai.tnc.ne.jp



当施設は、フランスの美しい港町より名付けられました。人生の安らぎと潤いを求めて寄港して頂きたい想いがあります。ご利用者様の生活状況に応じたりハビリティを重視し、心身機能の維持向上をめざして支援をさせて頂き、そして元気になって、出航して頂きたいと願いながら、職員一同精一杯のケアをさせて頂いております。

医療法人社団 紅紫会

ナーシングホーム オンフルール

〒437-0023 平成18年4月開設
袋井市高尾1439-3 入所定員100名
TEL.0538-45-0080 通所定員20名
FAX.0538-45-0081
E-mail:onfuru-ru@jupiter.ocn.ne.jp



五洋の里では、地域との絆を大切にしてあります。納涼祭では、大勢の地域の方の参加のもと、成功を治める事ができました。秋には、地元の祭典として御殿屋台に来て頂き、利用者様とお囃子を観覧しました。又、防災訓練を現在一緒に行うべく準備を進めております。「地域に根ざした施設」を目指し、施設と地域にて互助しあえる関係作りを今後もしていきたいと考えています。

医療法人社団 藤友五幸会

五洋の里

〒438-0234 平成18年7月開設
磐田市掛塚3190-1 入所定員90名
TEL.0538-67-1755 通所定員40名
FAX.0538-67-1756
E-mail:goyonosato@bz04.plala.or.jp



当施設は浜松市浜北区の北部に位置し、浜松赤十字病院、天竜病院に近く医療協力体制に恵まれた施設です。周囲を田園に囲まれ、ゆったりとした時間が流れているような所に位置しています。現在入所者の長期化もあり高齢で重症化している方も増え、心のこもった看護、介護により一層努めています。季節の行事には地域ボランティアと交流を図っています。

医療法人財団 敬徳会

あらたま

〒434-0004 平成18年9月開設
浜松市浜北区宮口3152 入所定員80名
TEL.053-582-3211 通所定員20名
FAX.053-582-3333



介護老人保健施設長鶴の郷は、平成二十六年四月で開設八年目を迎えます。当施設では、多職種で在宅復帰を積極的に支援しています。また、認知症ケアを含めたりハビリティにも力を入れており、看取りなど終末期ケアにも対応しています。今後も老健としての役割を果たせるよう多職種協働でキメ細かな介護・看護・リハビリのサービスの提供して参ります。

医療法人社団 拓己会

長鶴の郷

〒435-0031 平成19年4月開設
浜松市東区長鶴町290 入所定員100名
TEL.053-423-2700 通所定員45名
FAX.053-423-2711
E-mail:info@nagatsuru.com



当施設は、三ヶ日インターから西へ車で三分程の距離に位置し、浜名湖を望み、山々に囲まれた温暖な気候に恵まれた三ヶ日の自然の環境の中、安心して暮らせる療養環境を、私たち職員一同、真心込めて提供させて頂きます。施設の主役は、利用者様です。従来からある「介護療養型医療施設」の機能を踏襲しており、主に医療ニーズの高い利用者様が多数施設です。地域福祉・医療ニーズに幅広く対応できる施設であるよう、常に努力しています。今後も福祉・医療の拠点になるよう頑張っていきます。

医療法人社団 早友会

クロヤナギ介護老人保健施設

〒431-1404 平成21年8月開設
浜松市北区三ヶ日町字志34-1 入所定員19名
TEL.053-524-1000 通所定員40名
FAX.053-524-1152



えいせい掛川介護老人保健施設は、掛川城より北へ約六キロの自然豊かな地に位置しており、今年で開設八年目を迎えることになりました。定員は入所一〇〇名、通所四十名です。当施設は温泉設備を併せており、足湯を御利用者様に楽しんでいただいております。今後も、温かみのあるケアの提供に努めて参りたいと思っております。

医療法人社団 恵成会

えいせい掛川

〒436-0342 平成19年4月開設
掛川市上西郷8021 入所定員100名
TEL.0537-20-1611 通所定員40名
FAX.0537-29-1116



38

介護老人保健施設の 理念と役割

〈理 念〉

介護老人保健施設は、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上をめざし総合的に援助します。また、家族や地域の人びと・機関と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

5つの 役割と機能

1 包括的ケアサービス施設

利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるようチームで支援します。そのため、利用者に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションを提供します。

2 リハビリテーション施設

体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能向上を目的に、集中的な維持期リハビリテーションを行います。

3 在宅復帰施設

脳卒中、廃用症候群、認知症等による個々の状態像に応じて、多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めます。

4 在宅生活支援施設

自立した在宅生活が継続できるよう、介護予防に努め、入所や通所・訪問リハビリテーションなどのサービスを提供するとともに、他サービス機関と連携して総合的に支援し、家族の介護負担の軽減に努めます。

5 地域に根ざした施設

家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応します。市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担います。また、評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努めます。

静岡県老人保健施設協会

〒417-0801 静岡県富士市大淵3901-1

介護老人保健施設 ヒューマンライフ富士 内

TEL<0545>36-0511 FAX<0545>36-2677

<http://www.rouken-shizuoka.jp/>